

1. 件名:「日本原燃(株)の設工認申請に係るヒアリング(再処理施設(2-119)、
廃棄物管理施設(94))」

2. 日時:令和5年11月14日(火)13時30分~16時00分

3. 場所:原子力規制庁 10階会議室(TV会議により実施)

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

(原子力規制部新基準適合性審査チーム)

古作企画調査官、岸野主任安全審査官、羽場崎主任安全審査官、上出安
全審査官

日本原燃株式会社 技術本部 土木建築部 部長 他1名

東電設計株式会社 土木部 耐震技術部 担当職

5. 要旨

(1) 日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)からの令和5年11月9
日の提出資料に基づき、地盤モデルの設定に係る対応方針について確認を
行った。

(2) 日本原燃から、主に、以下のとおり対応する旨回答があった。

- ・地盤モデルの設定に係る説明について、検討の流れを体系的に示すため、
追加調査やこれまでの検討で得られたデータとその適用範囲を整理する
段階と、これらを踏まえて設計に用いる地盤モデルの設定内容やその考え
方を説明する段階を区分けした上で、それぞれで説明する事項を整理する。

6. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

7. その他

提出資料

なし

参考

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000120.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000121.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000122.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000123.html
- ・ 日本原燃株式会社 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から特定廃棄物管理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000124.html
- ・ 令和5年11月9日
「日本原燃（株）再処理施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	公開しました。原子力規制庁の上出です。それでは日本原燃とのヒアリングを行います。本日は、令和4年12月26日に申請のあった再処理施設及び管理施設の設工認、
0:00:16	申請について、令和5年11月9日付の資料ほんとに事実確認を行います。
0:00:23	規制庁側の出席者ですが、コサクハバサキキシノカミデ。
0:00:30	ます。それでは日本原燃の方からまず出席者の説明をお願いします。
0:00:36	はい。日本原燃事務局の中浜です。
0:00:40	日本原燃側の出席者紹介いたします。
0:00:43	Steeringチームより、ノモト、
0:00:47	サポートメンバーといたしまして、大賀清。
0:00:50	あと東京、当然設計でのウノ様。
0:00:55	あとろう再処理の事務局参加させていただいてございます。
0:01:00	出席者以上でございます。
0:01:02	はい。規制庁神戸です。
0:01:05	今日の資料は
0:01:08	今日の資料というか議題は、耐震建物08の反映方針ってということで、ほぼ1枚紙。
0:01:15	なんですけど、何か事業者側から先に説明することってありますか。
0:01:23	日本原燃の大戸でございます。特にございませぬ。この資料につきましてご確認いただければというふうに考えてございます。以上です。
0:01:32	はい。規制庁亀井です。わかりました。それだと項目が分かれていますので、
0:01:39	それぞれ確認していければと思います。
0:01:44	まず0ポツの全般共通事項というところなんですけど、
0:01:53	共通事項なだけあってぐたのことが何も書いていないと。
0:01:59	いう状況なんですけど、例えば0ポツのサーとかですね、客観的なデータとあとは元の主幹が入ってるんじゃないですかと。
0:02:10	いったことに対して、こういうところを見直しましたとか作業進んでいる状況で作業を進めた状況で、
0:02:21	こういうことがありましたみたいなのとか、何か紹介できますか。
0:02:28	はい。日本原燃の大戸でございます。ちょっと今具体論ですいません。江藤ここで個別というので、ご準備してないんですけれどもこちら前もちよっと申し上げていたように主にデビュー者の方にですね、

0:02:42	この観点を設定してちょっと作業を進めているというところでございますんで、時間とそれから見解がわかるようにということとところを、
0:02:54	説明の方ですね、工夫といいますか停滞をしているというところでございます。以上でございます。
0:03:02	規制庁神です。ちなみに沼田さんはデビュー者なんですよね。
0:03:08	はい、その通りでございます。
0:03:10	最近もまたレビューはされたんだと思いますけど、こういうところがありましたっていうのは、
0:03:16	特にない。大分改善されてきてっていうことなのかもしれないんですけど、何か特にないんですか。
0:03:22	結構です。あります。いっぱいあるんですけども、今ちょっと空でここが弘電社弘電社というのをを使って整理してちょっと申し上げルー整理をちょっと私市来なかったということとでございます。失礼いたしました。
0:03:38	はい。規制庁亀井です。わかりました。
0:03:40	す。その辺りは仕様出てきたところでまた見るのかなっていう気はしますけど。
0:03:50	今まで何度もお話をしているようなところなので、この間あった西側の結果のところでもまた何かよくわからないんだけど、概ね成功しているとかですね何かそういう話が、
0:04:02	あったので、そこでも我々からまた話をさせてもらいましたからしっかりと説明できるようにしてもらえればと思います。
0:04:12	はい。日本原燃野本でございます。承知いたしました。今おっしゃっていただいた概ね整合しているっていうところはある意味少しですね苦しみながら書いてるところではあるんですけども、
0:04:25	概ね整合していると我々が見て判断したというのか、それとも、そのデータですね、アンリユウから考えて、自然と導き出される見解であるのかということとは、
0:04:38	きちんと分けた形で近いと思います。以上でございます。
0:04:43	はい。規制庁、大上です。
0:04:46	何か
0:04:48	大体いいねって思っているところ農村な、なぜそう思ってるのかっていうことを少しビジョン丁寧にブレークをすともう少し他の人にもわかりやすい表現になると思うんですねそういうところかと思います。
0:05:02	他の全般、共通事項のところでは何か話をしたい。
0:05:07	語りますか。

0:05:11	規制庁コサクですけど、今のやりとりでやっぱり不安なのは、そもそも概ね製造していると書いてるところって、まだ見解を述べる場所じゃなくて、
0:05:22	事実として何か特定されたのかとかっていう場所 2 辺に見解が入っている形になってるから、
0:05:31	概ね整合舞台にしていくとかっていうことでもそもそもなくてそもそも論法として間違ってるってということだと思っんですよね。
0:05:39	その論法としてしっかりと段階踏んでるのかっていうのをチェックするのがレビュー者であって、
0:05:45	ちょっと今の回答はレビュー者としての的確なっていうふうには思ったんですけど、大丈夫ですかね。
0:05:51	玄野本でございます。はい。認識は同じでございます。すみませんちょっとお答えが、少しまとめてなかったかなというふうには思っております。おっしゃっていただいている通り事実をまずきちんと書くと。
0:06:06	ということでそうですね我々の見解に相当するようなところを、あれこれ悩んでどうこうすると、その理由どうこうするというよりは、技術をきちんとうまく書くということに注力し、すべしであると。
0:06:21	今のことだと思ひましてそういうふうにはちょっとすみませんお答えが 10 万あったかなというふうには思ったところでございます。以上でございます。
0:06:29	はい、古作です。今の回答なら理解できるので、しっかりとその目線でチェックをして、次回はですね、網羅的に説明しろとは言わないので、
0:06:41	例えばこういうものとかっていうのはね。
0:06:44	コメントしたら印象に残るはずなので、そういうのは口頭で、
0:06:49	伝えていけるように、対応していただければと思います。以上です。
0:06:55	愛銀野本でございます。はい、承知いたしました。失礼いたしました。
0:07:00	はい、規制庁上津ほか全般としてはいいですかね。
0:07:04	はい。なければ次、1 ポツで全体の構成シナリオってところでこれも似たような感じではあるんですけど、1 ポツの 1
0:07:15	説明の全体像についての話があるんですが、この記載だけではちょっとイメージができないので、
0:07:26	どんな形に、
0:07:29	資料がな資料というかそのロジック構成になってくるのかなあというところを、解説いただけますか。

0:07:39	はい。辨野でございます。全体としてはですねここアノオオモト実態を考慮したパラメーターの設定とそれから基本モデルの設定の
0:07:51	それぞれのステップでやるべきことを、として、その設計で配慮してやることっていうのは、今日今までの設置の方で提示されるべきところというところが、
0:08:03	それぞれですね今後のところとその添付のところ、いわゆるキ一天引きですね、実態を考慮したパラメーターちょっとまた文言をまた変えるんで香田楡井君ですけれども、
0:08:17	インターポールはパラメータとして設定すべきところを、の考え方というのをきちんとそろえるとだから毎月とかそういうのは
0:08:27	というようなところをきちんと整理していくというのが、ここでやることだというふうに認識でここ整合し、制度をとっていくかというところでございますして、六ヶ所側から補足することができますか。
0:08:40	うん。うん。はい。日本原燃のオガセです今野元藤の方から申し上げおっしゃっていた、申し上げていった通りのところでありまして、基本的にこちらの本文部分に該当するところでございますけれども、1ポツの中の二つあるうちの下の方のパラメータのところの名称のところは書いている通りであるんですけれども、
0:08:58	その構成シナリオのところでございますけれども、今までというのは割とその、いわゆる今までの実態パラメーターっていうものを出してあげてそっからの基本地盤モデルを設定しますというところの、連続性というところが各、
0:09:11	因子ごとにちょっとばらつきがあったっていうところがありました例えば地盤物性のばらつきっていうところはどのフェーズでやるのか果たして実態の方でやるのか、基本モデルの設定でやるのかとか、そういうところがちょっと因子ごとにちょっと統一感がないとか言いぶりもちょっと違っていたというところがございますので、
0:09:27	まず実態パラメーターを出してあげる小っていうところを1回それで納めてあげて、そっから基本モデルを設定する上で、何をしていましようかっていう所を新たに立てまして、その二つの実体パラメーターと基本モデルは、設定するというフェーズがちゃんと分かれて且つその繋がりがどういう物に尻取りになっていくのかっていうのがわかるような章構成に直しているというところがございます
0:09:47	ます。すいません章構成のイメージですけど、そういうイメージで作っております。以上です。
0:09:53	規制庁神です。

0:09:56	前回のときも、5 ポツで、その地盤の実態を考慮したパラメータの設定と 言って第 1 回の話もありつつ、メインは第 2 回で、
0:10:06	地盤の因子ってどんなものがありますかねみたいな話から、特に 4 市に特定され、それについて説明があったと。
0:10:15	そのあと、コウポツが終わり、6 ポツになって基本地盤モデルということ で、要は設計に使うモデルをどうしましょうかと。
0:10:25	いう話の 2 段構えだったので、今大橋さんが言われたことと同じ。
0:10:30	ことじゃないかなと思うんですけど、何が変わったんですかね。
0:10:40	前の方でございます。おっしゃる通りですねえと章構成としてといいます か全体の考え方としては、変わっておりません。今のヒータ考慮したパ ラに、
0:10:53	変わってないんだとしたら、コメントに対してゼロ回答だっていうことで、
0:10:57	理解するんですけど。
0:10:59	2 年のことでございます。えっとですね。すいませんちょっと返せとかさっ き言ったんですが変わったところで、変わってるところがここですという 物までの仕方をしようとしてしまいまして、回りくどくて申し訳ありません でした。
0:11:14	すいませんコサクです。そもそもパラメータ設定っていう言葉自体が、プ ロセスを、
0:11:21	おかしくしてるんだと思っていて、設定するのはあくまでも地盤モデルを 作るという意味で、設定なんじゃないんですか。
0:11:29	その設定するにあたってのデータの整理をするっていうこと。
0:11:35	その前の段階があるんじゃないかなあと、私が設計者だったと思います けど。
0:11:40	その認識でいいんですか。
0:11:43	元の方でございます。多分、今古作さんのおっしゃってるのと私の頭と ちょっと合っていないかなと思いながらちょっと申し上げるんですけど も。
0:11:54	パラメータの設定と申し上げているのが、以前に整理した丹翔琉さんそ こから検討すべきものを 4 仕入れを選びましたけれども、
0:12:07	それぞれのその維持に対して、どのように、このそれぞれのパラメータ 設定するかという意味で、我々パラメータということで、
0:12:19	説明が足りない。
0:12:21	はい。良い医師に対して設定って何ですか。
0:12:25	そんなことは求めてないですよ。

0:12:29	元の方でございます。4市というのは、検討の単位だというふうには思っ てでございます。それぞれの4イシイ2に対して、まずはその2番の事態 を表したといえますか、
0:12:43	データに基づいて素直に、このような、或いはミナミというパラメータをま ず徹底してやるというような時代だから、そこで設定を求めてないですと 言ってるのに、
0:12:55	設計するんで設定する
0:12:58	にならない。
0:13:00	はいはいはいはい。すいません。設定するんじゃないとおっしゃってるこ との意味を私がきちんととらえられていないんだと思います。すいませ ん。カミデですけど。
0:13:09	発な段階では、しっかりいろいろ検討して、まずはデータを並べるって いうの、何かそういう話じゃなかったでしたっけ。
0:13:19	何かこの減衰に対していろんな考え方がありますよねこういう見方だと 何%自己読み方と何%だよっていう、まずそれを全体アノテレビに並べ るってそういう段階じゃなかったんですか。何かもう、
0:13:32	ポツの中で減衰をもう、この辺だと、ここだってやるんですか。
0:13:39	人間のことでございます。そういう意味では、最後に使う減衰ここだって やるわけではないです。それは患者さんがおっしゃる通りです。
0:13:51	で、データを。そうするとですね。そうですね。
0:13:59	それぞれの検討に基づく減衰このやり方だと何%、このやり方だと何% と言うことを述べるころまでは
0:14:11	実態を考慮したパラメータの内数ここは多分、イセ町さんと我々で認識 といえますか、同じ土俵に立っているかなと。
0:14:22	いうところで、えっとですね。そうですね。
0:14:28	いっぱいを考慮したから3日、
0:14:32	でですねちょっと我々思っておりましたのが、原水でいうとですね、その 岩石コアだとこれ、それからF検層だと、これ。
0:14:47	てというような手法ごとのものを並べただけのところ実態を考慮したパ ラメーターが終わるような意味ではなくってですね。
0:15:00	穂積です。
0:15:04	アノじゃなくってっていうのはさっき言っからの説明で何となく感じてはい るんですけど、
0:15:09	ダイトウ5ポツと6ポツの違いは何ですか。
0:15:14	何でじゃなくってっていうのをやらなきゃいけないんですか。

0:15:18	えっとですね、実際に現対として、そのデータに基づいてこれが最もらしくあろうということ、
0:15:29	設定してやる時においてですね、このずっと行って、はい。ごめんなさい。最もらしいっていうのを言う必要がなぜあるのかっていうことが、私として疑問で。
0:15:41	事実関係として並べた上で、設計として今後使うときにはこういうふうにしたらいよいよねと。
0:15:48	言えればいいのであって最もらしいなんて誰がつかれるといえるの。
0:15:52	証明できるのっていうことじゃないんですか。
0:15:55	玄野本でございます。はい。おっしゃる通りなんですけれども、えっとですね、ちょっと我々そこで考えますが、このこの後にですねばらつきなり保守性なりを、次マッキーで、設計料のパラメーター、
0:16:14	これはアノ海田はい。確か
0:16:17	ばらつきを言うのに中央値を設定しなきゃいけないっていうのは理解するけど、その最もらしいなんていう中央値を言う必要はなくて、
0:16:27	こういうふうを設定してばらつきをこういうふうを設定すると、全体として抑えられるモデルがつかれますよっていう、もっとムラタを言えればいいんじゃないですか。
0:16:37	とすると、スポーツの方に行って、奥津で言う必要がないっていうことになるんじゃないかっていうのが、こちらの発想だと思います。はい。はい。
0:16:46	こっちの発想だし、会合で早期に行けたと。
0:16:53	すいませんちょっとすいません会話を繰り返してしまって申し訳ないんですけど、そういう意味で非常にダイレクトに言うと、
0:17:04	えーとですね周波数依存性を持たせた形での減衰、それは敵で落ちるところを含めた形での直線としての減衰がございますけれども、
0:17:19	あれがですね、中央値に近いと言いますかそれが地盤の今データに基づくパラメーターに相当するところまで、我々経理するのかなという頭タバタでそれをちょっと見た上で、
0:17:36	バックにある保守性なり、考慮した上で、今度はまた一定減衰のものを積使いたいとかそういうような思いを入れた設計のものが、設定されると。
0:17:47	日本ふうな考えを持っております。そうするとですね今おっしゃっていた中央値を設定すると言っているすいませんちょっと定義の仕方が、

0:18:00	私の言い方がちょっと悪かったっていうのはあるんですけども、そういう意味ではあまりずれていないといいますか、そういうことだったのかなというふうに思ったんですけども、ということで、
0:18:14	お話しされてたんですね、途中まではポポツでいろんな減衰出ますねとか岩石試験もあれば3軸圧縮、
0:18:24	モリイ自身は印象
0:18:26	あり、家族アリタ
0:18:28	いうことでいろんなのが出てくるんだけど、バイリニアとかも出てきますねと、そんなものをまず一旦並べた上で、5ポツの中で、県水、
0:18:41	の確からしいところは周波数依存のない、MaaS直線の減衰、
0:18:47	それが確からしいしかも今それを中央値と表してましたけどそういうものになるんだというのがまず、コンポツの話。
0:18:58	それを、その直線を6ポツに持って行ってさらに池田博士設計上の余裕とか何とか言って下駄を履かせて、件数をちょっと下げるという
0:19:08	が見込みを多めに持つというようなことをや、考えているってことですか。
0:19:15	原燃の大戸でございます。いえ。ですね、ちょっと前段のところ私が申し上げたつもりのものが表現できない。すいません。5ポツの2番の実際考慮したのところは、
0:19:29	リニア型として、終発依存性があるものとして設定したものが5分まででやることで、それがおそらく、データから見えてくる。一番中央値に近いものであろうということで、そこまでがクボ。
0:19:44	で、そのあと、一定減衰にするというのはこれは設計表の配慮ですからこれは基本地盤モデルの設定の配慮の方に入るものだというふうに認識してございます。以上でございます。
0:19:58	規制庁過密でそのときに、そうだとすると5発で特定されるリニア型のものって、あれだっていろいろあるじゃないですか。
0:20:08	地震は菅数自身は記録だけじゃなくて、試験だってリニアっぽい感じで、減衰出てくるし、いろいろあってそれがだから、
0:20:21	何本もありますよって話だったらわかるんだけど、一本のリニアと戦時収束するんだっていうのがよくわからないって。
0:20:30	そうそう、そういうふうに何か一つの線に収束する、させるんですか。個別の中で、

0:20:35	原燃ノモトでございますはい。一つの線を設定するところまでを念頭に置いておりました。そこがちょっとそうですね規制庁さんのおっしゃっている呉イント。
0:20:49	ちょっと違うということであれば、ここわあ少し我々も考えなきゃいけないなというふうには思いました。以上でございます。
0:20:58	コサクですけど、イメージが違うというかですねそのプロセスを踏む必要性が全く感じないのですよ。
0:21:07	そこを議論したいんだったら1年かけて、
0:21:11	学術的に議論しますけど、そんなことを、
0:21:14	お望みですか。
0:21:16	原因の方でございます。1本に集約するということが、その検討と いいですか、それを固めることになってきます。それはきっちり3プロセ スじゃないよねって、今おっしゃっていただいと。
0:21:30	いうことかなというふうに理解いただきました。
0:21:34	そうですね。すいません。我々の認識がこれ、いつまで今ちょっと違っ たというのがわかって非常によかったというふうには思います。言っ て、データをまず全部並べるということまでが、ここであると。
0:21:50	いう認識をするのであればそういうステージかなと思ったんですよ。イマ セ六ヶ所側から何か意見ありますか。
0:22:00	はい。辨野オガセでございます。今のやりとりを踏まえまして、こういうこ とから、
0:22:08	あれ。
0:22:10	聞こえますよ。日本原燃の方でちょっと音声が乱れているようなので すが聞こえますでしょうか。
0:22:17	はい。聞こえます。当社が適宜言うとイシカワ
0:22:24	すいません、東京支社さんに言うと申し訳ないですお願いします。はい。 大丈夫かな。はい。日本原燃のオガセでございます今のやりとりを 踏まえまして、ちょっとこういうことかなというところは、ちょっと私なりで ございますけども述べさせていただきます。
0:22:37	まず(5)のところいわゆるデータを複数手法によるデータを今回かき集 めましたSR検層しっかり地震観測しっかり新屋干渉法しっかり、あとはコ ア試験とかですね複数のデータを集めましたと。
0:22:49	ただ(5)の中ではデータを集めました終わりだけではなくてやはりそれ ぞれのデータを持つ物理的な意味合い。いわゆるその手法の抽出する 際にこの辺は周波数としてこの辺が対象ですとかいわゆる

0:23:01	地盤建物の一次固有周期とかそういったところに着目したものですって いうところを踏まえまして、いろんなデータが並列に並びつつもそれらは どの周期に特化してるかとか例えば、
0:23:11	そういったところが整理されるものだと思っております。そういった各手 法の持つ意味合いを踏まえまして、(6)で、設計にあたって、どういうと ころに着目してどの値を採用していくかっていうところが、再採用じゃな いですね、決めていくか収束させていくかっていうところを(6)で述べて いく。
0:23:29	そうするとおのずとキタノ設計で使う減衰、つまり減衰の1サノ地盤モデ ルというものが出ていくと思いますので、ちょっとその学校の中ではデー タ並べて物理的な考察みたいなどころまでのものを、
0:23:41	やるというのがこないだの審査会合でお話した内容とも合うと思ってお りますので、ちょっとそういうふうな形ではちょっと軌道の方をちょっと修 正させていただきたいと思えます。以上です。
0:23:51	はい、規制庁カミイチ今言われた通りのイメージだったので、
0:23:55	何で変わっちゃったのか不思議ですけどあの、はい。そういった形であ れば、特にあの、
0:24:01	認識はに相違はないです。はい。
0:24:04	ちなみに今言われましたけど1時に、
0:24:10	着目したものですとかあとはそのデータの適用範囲、これはこういうと ころを見たんで、このぐらいの適用範囲ですよみたいなどころをまずやっ ぱり、それを
0:24:21	セットにしてちゃんとそれぞれ平日に並べておくっていうのが、ポポツで 大事なことですからそこをしっかりやってもらわないと6ポツでの議論も 定まらないということで、しっかりよろしくお願いします。
0:24:35	はい、天然オガセですかしこまりましたそのように対応いたします。は い。
0:24:41	はい、規制庁幹事ほか1ポツで気になると。
0:24:47	あと、一応規制庁上津アノ今減衰がわかりやすいんで例示出しましたけ ど他の因子も同じような形で語られると、ずっと認識してますんで大丈 夫ですよ。
0:25:01	はい。どうぞ、辨野でございます。はい。どういう意識でおります。はい。 ありがとうございます。
0:25:11	はい。規制庁上出です。

0:25:14	ちなみに今の話聞いてて、他のところで、ちょっとこうなんだけどどうですかねみたいな話とかって、もしあれば聞きますけど、大丈夫ですか。
0:25:30	規制庁、麻生なんですよ。先に後でもいいですけど。はい。進めます。次が具体のところ、2 ポツで各因子におけるデータ分析ということの、
0:25:41	まずは 2 ポツ 1 の岩盤部分の物性値のところ、規制庁側から確認あればお願いします。
0:25:50	すべてのキシノです。2 ポツ-3 の、
0:25:54	②と③の内容について確認したいと思います。
0:25:59	②の方は、2 行目で考察を実施するってあってその次のパラグラフで、考察にあたってはいいので、考察の中身。
0:26:09	どういう検討をするのかってということが書かれているように思うんですけども。
0:26:14	ちょっとこういう書き方をされるとどういう手順で何を進めていくのかって、うちのちょっと読み取りにくくてですね。
0:26:19	なので、具体的に何をどういう手順で進めていくのか、ちょっとフローチャートを明示するような形でご説明をしていただきたいんですけども、お願いできますか。
0:26:32	はい。日本原燃の大橋でございます。すみません。口頭でよろしかったでしょうか。申し訳ありません、口頭でのご説明になります。ちょっとご了承いただければと思います。
0:26:40	はい。で、ここの 2 ポツの 3 番のところのアノ断層の影響のところの話だと思いますが、手順として、すみません。私の口頭でちょっと頭で考えながらしゃべりますんで、まず、1 画一発目につきましては、まず建屋の下に断層が潜っていて、
0:26:57	いわゆるその建物のいわゆる直下の範囲内、建物の端から端とかですけれども、その中で地質構造が異なっているような建物を抽出します。そこまでが 1、
0:27:07	次にやることとしては、その地下構造がその建屋の中で異なるというところにつきまして、じゃあ一体どんな地盤が分かっているのか、それが今までもお話しておりました。この建物のこっち側の端では上盤側が断層を挟んで上盤側が卓越下盤側卓越というようなところで、
0:27:25	何パターン、地盤物性を作る必要があるかというところを検討いたします。で、そこで出てきた複数の地盤の物性というか地下構造の特徴がこの同じ建屋の中でも直下で何パターンか出てくるわけなんですけれども、

0:27:38	それに対しまして、物性値を当てはめるという作業をいたします。その物性値を当てはめる際には、近くのボーリング孔で、そのいわゆる上盤側のデータがきちんととれているものもしくは下盤側のデータがきちんととれているものそういったものから、物性値をその各建屋直下のところで、地下構造を異なるごとごとに作ってあげるといことで、
0:27:58	1000、ちょっと、それ言って申し訳ないんですけど、一つ一つ、
0:28:03	今、すごい流れるように立て続けに御説明されてどこでフローが送れるかってイメージが持ちづらいんですね。
0:28:10	まず一番最初に、江藤江藤直下に断層がある施設を抽出しますっておっしゃったんですけども、
0:28:17	1行目に、検討対象とする断層の考え方を整理した上でっていう言葉があつて、
0:28:23	まず、この断層検討対象この断層は検討不要といった考え方を整理するのかなと思ったんですが、そういったプロセスは入ってこないんですか。
0:28:34	日本原燃オガセ申し訳ありません最初のしゃべったものの中に入れてしまつて私がしゃべっておりました議長さんのおっしゃる通り、まずはどの断層を対象にするかというところがおっしゃる通りで入って参ります。
0:28:46	具体的にはグループ、我々が12グループ作っているところでございますけれども、その中にあるものっていうようなところで考えてございます。で、敷地内にF-1断層とか普通断層という非常にオオキアノ落差が大きいような断層というものもございますけれども、
0:29:02	それにつきましては何ですかねそのグループを跨ぐようなことまた建物を跨ぐというものではございませんので、それらについては対象とはならずあくまでグループの中に入っているsF系とか、そういった副断層系のものですねそういったものを対象として、
0:29:16	サーベイをかけていくというようなそういうようなフェーズになってございます。以上です。
0:29:20	成長の中で、
0:29:24	この時点で、グループ内に断層があつたらそれはもうすべて対象にするという、そういう考え方がまず最初に述べられて、
0:29:32	ですかね。
0:29:33	日本原燃の方が清さんのおっしゃる通りでございます。はい、わかりました。じゃあすみませんその次のステップからまた続けていただけますか。

0:29:41	はい。日本原燃の方ですいませんちょっとちゃんと細切れでお話しするようにいたします次に、式グループ内に断層がありますとなった時にそれが建物の下に潜っている建屋、日本語が変だ、
0:29:54	それがその断層が潜っている建物というものを抽出いたしますというところですか。はい。すいません細切れにしました。はい。
0:30:02	説明。はい、わかりました。その人に断層が入っ
0:30:07	つまり解放基盤表面より上までの範囲っていう
0:30:10	ことかなと想像しますけど、まず入っているのは間瀬そういった施設はすべて抽出するとそういう考え方なんですか。
0:30:19	はい。日本原燃のオガセです。これちょっと次にお話ししようと思っていたことに踏み込むので、次お話ししますが、まず当然どの断層もちゃんとサーベイには入れますその上で、地質構造の切り替わりみたいなものになっている断層、断層というかそういう建屋に絞り込んでいくというようなそういうようなプロセスになっていきますちょっとすいません次まで踏み込みました。
0:30:43	時点で、対象と
0:30:44	断層対象としない断層の判断がまた遅れるということですか。
0:30:50	断層の切り替わりに応じてっていうような言葉があったと思うんですが、そこで何らかの判断が入るということでもいいんですか。
0:30:57	はい。日本原燃の大橋宗です何らかの判断というものにあたりますけれども、まさにアノ断層の割れ目はありますけれどもそれで岩種が全然切り替わらないあくまでその同じ岩種の中で割れているといったようなところがございまして、そういったところにつきましては影響なからうというようなところの判断、そういったものがここで入ります。
0:31:16	説明します。はい。
0:31:19	あ、すいません。補足です。
0:31:23	1点確認なんですけども、
0:31:27	この丸2の、
0:31:31	等、
0:31:33	0じゃ③。
0:31:34	あれ、⑩、
0:31:36	ごめんなさい、考察にあたってと書いてあるところの2行目。
0:31:41	建物構築物の直下または近傍のPS検層結果だけでなく、
0:31:47	上盤基盤と、
0:31:49	言っていて、

0:31:50	この近傍っていうのをどう扱うのかっていうのがよくわからなくて、
0:31:56	断層がその建物の直下に断層があれば言っちゃうと、近傍に断層があった場合どうすんの。
0:32:02	というところで、もともとのデータは、近傍の影響を考えますと言っているのに、何かずれがあるような気がしたんですけど、その関係はどうなってますでしょうか。
0:32:13	やっぱり日本原燃のオガセでございますちょっとすみません日本語だけで書くと非常にわかりにくいのははい、自覚した上でです申し訳ありません。で、今ここなんですけれどもこの近傍のPS検層だけでなく、というところにつきましては、
0:32:27	今まで審査会合の資料なんかでもお示してございます。うちの施設のマップ 2 個ボーリングをポチポチとこういったものでございますけれども、それというのが、当然主例えばG14 なんかを例にいたしますと次 14 の近傍直下または近傍というところでは、1 点のデータしかとれていないというところがございます。
0:32:46	そういったところにつきまして、その 1 点のデータだけをとってしまいますと、宇和盤と下盤側がちょっとミックスしてしまっていて、しかもその何ていうんすかね宇和版と下盤の層境界の深さみたいなのが建物の、例えば東原と西橋で違ったりして、
0:33:00	果たしてこの 1 個のデータ 1 個の近傍のデータだけで物が論じれるのかというところが今回のこの課題の問題だと思っているところでございます。ですので、そういった時にはやはりそういった上盤側支配的な建物の
0:33:13	例えばヒガシ橋ニシダ場が支配的な 28 とかっていうところについて、ちょっと視野を広げて、ちょっと上盤側地質が、
0:33:21	卓越してるような場所のPS検層も取りに行こうというようなそういうような意味合いで、そのデータのとる範囲を、こういう断層による影響があって且つその直下のPS検層だけではちょっと論じれないという場合には、そのデータを取りに行く視野を広げるというような行為をしているというのがここで言いたかったことです。以上です。
0:33:41	説明は理解できましたが、本当にそれでいいのかなっていうところの質問です。
0:33:47	今のワー悪魔D、
0:33:50	モデル化をするときのデータは、建物の面積の直下、
0:33:56	全体プラマイ、

0:33:58	そのときに、1点では代表性がないような場合、周辺のところのデータから持ってきて、そのデータに相当するだろうというようなものをかき集めて、モデル化をしていくと。
0:34:13	いうプロセスになるのかなと思いますが、
0:34:18	今、これまでの審査会合で東側にし、追加ニシカワというところの話をしていただいたときに、
0:34:26	必ずしも直下だけではなくて周辺の状況を踏まえながら周りの影響もとらえ、
0:34:32	影響を受けながらその地震動というのが全体に加わってくると。
0:34:37	いう特徴を、
0:34:39	試験として獲られたんじゃないかなと思ってたんですけど、それはやっぱりないってことなんですか、考えないってことなんですか。
0:35:01	こちら六ヶ所です少々お待ちください。
0:35:52	佐野。
0:35:54	日本原燃の岩瀬でございますちょっとすいませんシンクっていうのがいいかもしれません申し訳ございません。今回、ちょっとその断層のところの話というところをさせていただいているものというのが、
0:36:07	岸野さんからご指摘あったところで建屋の下でずれているところももちろんな。
0:36:12	今回我々、最終的にはです今回データを集めるというフェーズにまだいるというのはわかりつつ、最終的には設計で何かしら用いるような地盤の物性値というものを決めるというところに当たりましては、
0:36:24	そのいわゆる地質の層境界の深さみたいなのが果たしてその代表できるかその1点で代表できるかというところについて、もっとちゃんと検討すべきであろうというところにちょっと立ち返った検討をやっているというふうになんか思っているところです。
0:36:38	この間減衰のところの議論のところ東側地盤のところなんかの地盤の同定のところでちょっと
0:36:46	あくまでその地震観測位置よりもちょっと視野を広げてみると、やっぱり何かちょっとした地盤の違いみたいなのがあたりもしますのでそういったところをやはり反映した方が敷地の地盤振動としては正しくなり、なるのではないかなというふうなところもありますので、
0:37:00	それとある意味、今回やっている検討というのはちょっと整合しているのかなあというふうに思っていてちょっと、我々としてちょっとあった検討してるかなと思ってました。はい。はい。

0:37:10	そう。やっぱりね、原燃の問題点を小幡さんもその短絡的な発想だよ。
0:37:18	途中まで言ってることは非常に正しいんだけど最後のところでころっと主幹結論に変えちゃうから、
0:37:26	そこを下質問してるのに該当すっ飛ばしてんだよね。
0:37:29	説明したふうで言って、何も回答せない。
0:37:33	そういう資料を毎回出してくるから話が進まない。
0:37:39	知見が出てきたんだと思ってますそれはアグリーです。
0:37:44	それを踏まえて本下水っての議論の場ではあったものの、全体的なパラメーターとしてもそういう特徴があるんだと思います。それは私もそう。
0:37:56	であれば、今回どう考えるんですかっていうのが質問で、現状の説明を受けている内容だと。含まれていないとこちら思っているのに、大橋さんは含まれてるとかってますとだけ言ったと。
0:38:10	ということで、私がフクマ含むと思うやり方は、
0:38:16	直下の断層だけではなくて少なくともグループ分けをした敷地範囲全体。
0:38:23	2a断層があれば、
0:38:25	たとえ建物からメーター10メーター離れた断層であっても、
0:38:30	そこからの違いっていうのが影響を与えるものかどうかという分析をしますと、
0:38:36	ということじゃないかなと思ったんですけど、それをやるつもりはありますからいいですか。
0:38:53	はい。日本原燃のオガセでございます。今やっているところの内容といたしましては、基本的な方針といたしまして、各グループ内にあるPS検層データを用いて、はい。
0:39:07	今平均的な物性値を決めるというところをまずベースとしておりますけれども、今の問題となっているような地質構造が途中で切り替わっているような建屋があった場合にはそれが反映できないかもしれないというところで、各グループ内のPS検層結果をグループ内の各建屋個別に全部に、
0:39:25	一律に反映していいかというような議論だというふうに思っておりました。ですのでそこにつきましてあくまでその断層を考慮した場合とかの地質構造の違いっていうのは、常に
0:39:37	今、最終的に設定しようとしていたグループ内のPS検層結果に基づく地盤応答これと常に比較しながらやっていくことを考えておりました。で

	すので各個別建屋の状況がちゃんと断層踏まえて、把握できた上で、それがすべて
0:39:54	グループ内のPS検層に基づく物性値である意味包含みたいところができれば、基本方針通りのPS検層に基づく物性値を使うことに問題なからうというようなそういうふうな結論に導くことを考えておりましたので、
0:40:07	グループの中全部に対してやるというよりはナカノ断層全部にやるという意味よりは、各グループの中で、
0:40:15	ある建屋、個別にすべて網羅していくというようなそういうようなちょっと話の流れかなと思っては、今は考えておりました。以上です。
0:40:23	コサクです。
0:40:28	何を考えておられたのかは先ほどよりは理解を深めましたが、
0:40:33	今の説明からすると逆に、これまではグループで話しますと言ったやつを、また元に戻って建屋ごとにやりますと、
0:40:41	いうふうに、元に戻ってすごい作業をすることになってるような気がするんですけど。
0:40:48	そこまでやる必要があるんですけど。
0:40:59	日本原燃のオガセでございます。あくまでやはりグループ単位でくれるであろうという最初のところというのはある程度の地質構造敷地の地質構造みたいのところと、あとは建物の近いところというところで1回決めているところでございます。
0:41:13	あくまでこの断層の話というところにつきましては、その中でもそのグループで、概ね地質構造が一緒だよというふうにある意味仮決めしたようなグループというところが、本当に一律のものとして扱っていかるところを、断層がある建屋をある意味そういう特異なものとして、
0:41:29	きちんと深掘りしてあげる必要があるというところの位置付けでやっておりますので、特にグループのをまたばらし直してやっているというようなそういう話ではないというシナリオだと思っております。以上です。
0:41:39	コサクですだとするとさっきの、
0:41:42	古閑さんの説明が誤解をさせる説明に、
0:41:45	なっているので、やっぱり言い方を改めていただきたいんですけど。
0:41:50	結局はグループの敷地として線を引いた範囲内において断層があるかないか。
0:41:57	その断層のところとどれだけのその地質構造としての違いがあるか。

0:42:04	その上に乗っかる建物についての影響として、どういうふうにおよぼし得るかということ进行分析をすると。
0:42:14	ということだとすると、
0:42:16	私が最初に申し上げたその範囲内においての断層を一通り考えるんだということには当てはまると思うんですけど、
0:42:27	そういう形。
0:42:29	になります。
0:42:31	それでもやっぱり違う。日本原燃の大橋です今、尾崎さんがおっしゃった流れの通りのロジックでございます私の伝え方もですしちょっと多分資料の作り方もあまりそういうふう綺麗になっていないので、
0:42:43	はい、きちんとそういうふうにしたいと思います今おっしゃった通りのところでございます。
0:42:49	すべての機能、今のやりとりで本当に認識が合ってるのかよくわからない。
0:42:54	多分、
0:42:55	来週出てくる建物 08 にこの辺りの検討結果が反映されていて、もうちょっと検討が進んで今レビューを受けてる段階、スケジュールですね。
0:43:04	と聞いていたんですけど、認識は合ってるというかそういうロジックですということなんで、この辺りは今のもう作りつつある資料の中で、そういったロジックに沿った説明がされるという、
0:43:17	ことと理解しとけばいいんですかね。
0:43:21	はい、原燃の大橋でございますその通りでございます。し、今作っております資料につきましても、大筋は大筋というところであれですけれども流れとしてはそういった施工のプロセスになってございますのできちんとそれがわかるように、はい。ちょっと書きかえる必要がありますが、
0:43:35	今のやりとりの中であつたようなはいお話をさせていただくような資料にしたいと思います。以上です。
0:43:41	先生。はい、わかりました。今のやりとりを踏まえてですねまた来週出てくる資料見ますので、
0:43:47	そこでよく今のご説明と、ちゃんと整合するような形になってロジック展開されているかどうかという点で、ちゃんと
0:43:56	説明できるようにですね準備をお願いしたいと思います。
0:43:59	はい。すいません。規制庁神です。来週出てくる資料って、6 ポツってどこまでのものか来るんだったっけ。
0:44:19	泊神野でございます。失礼いたしました。えっとですね、

0:44:24	基本、刀禰概況出すものは、6 ポツは考え方のところまでは、骨格としてお出しするということに、
0:44:35	となっていたかというふうに思いますので、そういう意味ではですね、こうやって、球菌についてこうやっていきますというところまではお出しすることになります。本郷0とおっしゃってるのかなと思っています。申し上げます。
0:44:52	はい。規制庁亀井です。1 ホンダの6 ポツは、一通り書き切るのか今までみたいに、パートパートでここはツジですみたいな感じで、
0:45:03	来るのかっていうと、どんな仕上がりですか。
0:45:06	年々ノモトでございます。えっとですね結論部分はツジですというのがどうしても入ります。追加協賛もまたあれなので、ですけども、こういう考え方でやっていきますというところは各パートで解決ということなのでパートがですね丸ポツイデってということはないですけど、
0:45:22	作ろうとしております。
0:45:25	はい。規制庁深見です。先ほどの、
0:45:29	話を踏まえ、話を持ってるので今後6 ポツが、来週はまだ途中段階ですけど、そのあと会合の後にやっぱりしっかり書かれてくると。
0:45:43	いうときに、先ほど私が大庭さんに5 ポツで、これがどんなデータのここで、どういうエクスキューズがついて、どういう性状のものなのかっていうのをしっかり明らかにしてください。それから、ポツで大事だよっていうのと今同じで、
0:45:58	減衰のところの観測記録の西側なんかを見ると、もはや断層ではないんですよね、断層じゃないんだけど、離れたところで傾斜しているところがあって、
0:46:11	そこがもう、
0:46:12	厳正には効いてきちゃってるんだと。
0:46:15	というような知見が、まず取れていると、5 ポツの中で、そういうものをちゃんと肋骨に持ってくるときに、その知見を減衰のところだけで使うんじゃないくて、
0:46:25	他の岩盤の物性の設定だとか非線形の設定だとかっていうときにも、ちゃんとそういう知見を持って本当にこれでいいのかっていうのを、6 ポツでしっかり見て、
0:46:36	設計に使うモデルっていうのを決めてくださいねっていうのが私の趣旨だったのでその辺り、ご理解いただけますかね。

0:46:51	はい。原因のことでございます。はい。おっしゃってる趣旨は医長です。衛藤。
0:46:57	はい。はい。理解いたしました。
0:47:01	はい、規制庁カミヤアノその辺りがあの辺にこう限定化して説明なっちゃってるんじゃないかなっていうのがあるので気をつけてもらいたいなと。
0:47:12	いうところで口を挟みました。続きをお願いします。
0:47:16	はい、規制庁の岸野です。やっぱⅡ-3に戻らせて
0:47:20	と。
0:47:21	②の考察にあたっては大部分が先ほどのやりとりで説明があったのかなと思いますので、ちょっと詳細の確認は省略しますが、
0:47:31	この
0:47:32	パラグラフのですね、3行目かな。
0:47:35	複数の地盤物性を設定し地盤応答解析による確認を行うって括弧云々と。
0:47:42	これは具体的に、
0:47:44	複数の地盤物性っていうのはどういう意味で、
0:47:48	地盤応答解析の確認を行うというのはどういうモデルに対して何の解析手法を使って、
0:47:55	何を確認するんだっていう辺りっていうのはもう少し説明をしていただけないんですか。
0:48:01	はい。日本原燃のオガセでございます当然この辺は資料に条件は書かれて出ていくことになりますけれども、先ほどステップ2ですかね、あれ、次から上へ整理することになっている、各建屋の直下のところでの例えば、
0:48:17	建物の東端に志賀西橋ヒガシ土師というところで、それぞれ宇和盤下盤側が卓越しているような違いがあるというふうになった場合には、そのヒガシさんのところでの地質構造の1次元的なモデルというものを、まずは1次元ベースですけど、組んであげるといってニシタンベースニシタニベースで、
0:48:35	下盤側が卓越してるような地盤の物性を組んであげるといって、そういった形で、それぞれの建物の場所場所における、建物内の場所に場所における、地盤の1次元の地盤物性を設定してあげます。

0:48:49	それに対しまして、だっけ、Ss-Aですかねっていうところで地盤応答解析、振ってあげまして地盤を振ってあげまして、解放基盤 2 波を入れてそれを
0:49:01	建物の基礎底面レベルのところの地中は応答として取り出してそれを比較するというような形、いわゆる岩盤の非線形の時に地盤応答で比較を行いました但那と同じような条件でそれを場所場所の複数の物性値モデルに基づいて実施し比較するというようなことを考えてございます考えているとかそういうふうになってございます。以上です。
0:49:23	ツツミ。
0:49:25	複数のPS検
0:49:28	に対応する地盤物性という
0:49:30	かなと。
0:49:31	なんですけど、複数のモデルを組んで、1次元のSHAKEを流して応答の比較をすると、そういう意味かなと理解しました。もし間違っていたら言ってください。
0:49:42	日本原燃おかしいですアノキシノさんのご認識の通りです。
0:49:47	③番に、その続きがあって、
0:49:51	解析結果、
0:49:52	下を踏まえて保守的となるものを選定する方針とするってこれも、
0:49:58	漠と書いてあるんですけど、施設評価において保守的となるものってのはどういう観点で、その解析結果を評価するのか考えはあります。
0:50:08	僕やってるんだから、教えてください。
0:50:12	はい。日本原燃の大橋でございますちょっとこれすみません 2 ポツ 1 に書いているんですが本当はこれって本文のいわゆる冒頭の方でもお話したの(6)とかに該当する基本モデルの設定のところでのステップになりますのでちょっと新野さんに、
0:50:27	書いてるのがちょっと自分で今微妙だなと思ったところだったんですが、最終的なところといたしましては、まずいわゆる本文の(5)、データの
0:50:36	横並べというかデータを全部テーブルの上につけるというシーンでは、今回のこのG14 光といったところにつきましてはそういった複数のところの、
0:50:47	係数の地盤物性が考えられますんでその分、地盤の応答につきましてはこうなってますまでになってございます。それから先、基本モデルを設定するに当たりましては、それぞれの複数の状況の物性から出てきた地盤応答を比較してということになりますけれども、

0:51:04	その時には施設に、の評価においてご指摘となるものというところでございまして、いわゆる施設の保有周期建物ないし施設ですけれども、そういったところのこういう周期とかを踏まえまして、例えば完全包絡してればいいですけどもしてない場合にはその周期体を見てあげて、
0:51:19	どれで設計するのは、この建屋にとってはよかろうかというところ、1本に入れていくというようなそういったところのことを考えているというものでございます。以上です。
0:51:29	はい、わかります
0:51:32	着目するのは建屋の冒頭だけというように聞こえる。
0:51:35	例えばG14。
0:51:37	SA機器とかですね、Sクラス設計をしなきゃならないような機器もあったんじゃないかなと思うんですが、機器の影響の観点でこうしていくかどうかというのは特に評価しないということです。
0:52:04	複本でございます。六ヶ所はもちろんちょっと気がついたら認識当てたらウタダ商品ですけどもここで言っている施設の評価において不適となると、
0:52:16	言ってるのはその地点における時も含めた周波数体を着目して、これは発見していくということになるんだというふうに言っているのもそういう意味では、記者さんおっしゃる通り大損
0:52:31	直接ですね、おるような施設といいますか、経験を含むような形になるというふうに考えてございます。
0:52:38	六ヶ所は、ちょっと認識をやらせてくださいよね。
0:52:56	規制庁の基準です特に六ヶ所側から補足はないと。
0:53:07	あ、すいません日本原燃の場所ですミズタのまましゃべってましたはい特に補足はありませんそういう認識でございます。
0:53:15	セトの中、はい。方針としてわかります。
0:53:21	はい。部隊がちょっと資料出てきてからまた質疑させていただきますけれども、
0:53:28	今回施設評価において保守的となるものっていう漠と書いた書き方だけじゃなく、
0:53:34	どういう観点で、何に着目してっていったところはちゃんと、
0:53:37	最初の冒頭の補足のところですね、説明をしていただきたかったなと思います、今後ちょっとそういった留意をしていただければと。
0:53:45	で、
0:53:46	もう1個ですけども、

0:53:48	③の文書の一つ目に括弧の中で、G14BFCT他の対象のフクイ施設を抽出してあって、
0:53:58	これは次 14 だけじゃなくて他の施設についても、
0:54:02	この②の 2 パラグラフ目で書いてあるのと同じプロセスを踏むのか、それとも、必ずしもPS検層といったデータが、
0:54:12	断層を挟んで両側でないかもしれない、そういったものについてはまた別の考えを持ち込むつもりなのか、その辺りはいかがでしょう。
0:54:21	はい。日本原燃の大橋でございますちょっとこの括弧の場所がすいませんあんまり良くなかったんで本当はこれ丸。
0:54:30	丸 2 でいいのか、先ほど私がステップ 1 だと言ったステップ 1 と 2 ですかね、で行ったそのグループ内に断層があって、その建物を、それで断層を跨いでいるような建屋を抽出していきますというようなところ言いましたがそれで抽出された結果の建屋が、
0:54:46	次 14BFCT含め、他にもあるわけなんですけれども、そういったところが抽出された結果になりましてそれがそのまま応答やる、応答で確認するものの対象に落ちていくというものになりますので、ステップの 1 から順に出てきたものと同じことがここに、同じものの位置付けでございます。以上です。
0:55:05	例えば、BFMCTその他って、
0:55:09	断層があったとしてその断層を挟む両側でPS検査データとかって一応そろってるんですけど。
0:55:18	はい。日本原燃のオガセでございます。ピーエイとエフ・シー・シーとちょっとすいません他の例えばちょっと今ごめんなさいちょっと今書ききれないところでありますけれども、基本的にその近く、勤務、すいません近傍とか近くの使い分けがちょっと微妙だっているのはわかりつつなんですけれども、
0:55:34	同じような地下構造を有しているところの、な範囲の中で、いわばいわゆる上盤側が支配的なPS検層があったりしたバーガーが支配的なPS検層だったりというデータはございましたのでそれは持ってこれるように持ってこれるというかそれを使うことができるとなっておりますただ、
0:55:50	G14 だけにつきましては、ちょっと今ご存知の通り追加調査をやっているところでございますので、それにつきましてはちょっとその反映待ちというばらステータスになるというような、ご説明になります。以上です。
0:56:02	成長なくします。はい。
0:56:05	私が把握してる限り例えば、家とかですね建物ちょ

0:56:11	ホソノ断層を挟んでデータがあったっけな、なかったよなっていう気もするけどなっていうところもあるんですがそれは、使えるものをどこからか持ってくるというようなことなのかなと理解しましたので、
0:56:24	具体的なところは、
0:56:27	一緒に出てくるし、
0:56:31	はい。2 ポツー3 につきましては、私から言います。
0:56:39	2 ポツ全般についてね。はい。
0:56:45	はい、規制庁簡潔にポツで、何かありますか。2 ポツ 1 か 2 ポツ 1。
0:56:53	物性値。
0:56:54	南波です。
0:56:59	特になければ、
0:57:02	次にポツ 2 の線形性のところですけど、規制庁側からお願いします。
0:57:14	規制庁患者アノ。
0:57:16	3 ポツ 2 の、
0:57:18	②は、
0:57:20	これさっきの話だと 5 ポツの範囲でなくて、ロップポツの話ですっていう整理になりますかどうですか。
0:57:29	日本原燃の渡瀬まさしく上出さんのおっしゃった通りこれは基本モデルの設定のところでの何だ、議論になると思っておりますので間、(6)、66 ポツですか。はい。
0:57:40	のところの範疇でのご説明になります。以上です。
0:57:44	はい、規制庁神栖わかりました。
0:57:46	何かその辺はさすがには、何だろう、来週出てくる本文でも 6 ポツで、
0:57:53	こういうことをやるんだっていうところの、
0:57:57	骨格みたいな見えて欲しいなと思ってるんですじゃないと、何か、
0:58:03	すごい中途半端な感じがするのそれぐらいは 6 ポツ、書いて欲しいなと思ってますけど、できそうですか。
0:58:13	日本原燃のオガセでございます本文の 6 ポツのところ基本モデルの設定のいわゆる方針的なところには、各因子のところに出てきたデータを並べたものに対して、こういうケアをしてあげる必要があるよというところを、今現時点でられてるDたに基づいて書いてあげる必要があるんでその中にはその支店系のところで、
0:58:33	ちょっと字重要なところでちょっと出っこみ引っ込みがありますのでちょっと他の保守性も考慮したようなところの判断を行っていきますというよう

	な方針を書くようにしておりますので、そういうイメージでやっておりますので、おそらく、
0:58:45	対応合っているのかなと思っております。以上です。
0:58:48	はい。規制庁深見です。特定して次 14 とかZっていいのか、全体として、横ぼつ先の影響、2 パターンありましたけどと、
0:58:59	ということについて
0:59:01	補修性っていうのはどこまでいう場合ですけど、こういう観点で、どちらを作業するか、この章で決めていきますっていうのがわかれば最低限、私の
0:59:12	お思いは達成できるので、それぐらいのものとして受けとめてください。
0:59:19	はい原燃のオガセでございますかしまりました。確かに方針なのであまりここで限定するのもよくないなと思いましたがちょっとはいその辺踏まえて、はい。資料の方
0:59:29	作って参ります以上です。
0:59:31	はい、規制庁河津 ほか、規制庁側から、2 ポツ 2 でありますか。
0:59:36	はい。規制庁箱崎です。同じ 3-2 のですね、①のところですね。
0:59:43	これZ等G14 についてということなんですが①についてはG14 については、深部、深いところですね比較的軟質な層は、
0:59:55	あった分として行ったことによる影響と考えられるということで、分析結果を追加するというふうに書かれてるんですけど、方針としてはそうなんでしょうけれども、
1:00:06	実際どういう分析をされる方針実際もうされてると思うんですけども、
1:00:12	そのあたりの内容について、説明今可能でしょうか。
1:00:32	はい。日本原燃のオガセでございますここですいません次 14 のところにつままして
1:00:38	だとある岩種が他の地点に比べて、同じ岩種でもちょっと速度が小さいというようなところが自重ようなところで見られたっていう特徴になってございます。で、すいません今の分析というところにつまましては、その同じ岩種中でも、次 14 の方は書記、
1:00:54	剛性が小さいのでその分ちょっと落ち方というかそういったところのひずみの伸びというのが他の地点の同じ岩種と比べて大きくなっているというような事実関係を整理した上で、それがおそらく周期としてやわらかい方長周期側ですかね。
1:01:10	とかに伸びていたとかいうそういうセンスが大きいというようなそういうような考察を記載していたところでございます。以上です。

1:01:17	はい。規制庁浜崎です。
1:01:19	この岩盤の線形非線形については、他のグループとか他の建屋に比べると入力地震動はですね線形と非線形の差が、
1:01:29	相対的に大きいとG-14とHzについてはですね、そういったところ、そういった観点でこちらからはして、指摘したわけなんですけども、
1:01:39	今のご説明、
1:01:45	なんつうかね、
1:01:47	何かこう、
1:01:48	分析をされたっていうよりも何か考察は、
1:01:53	追加されるというイメージなんですかねそれとも、その①の最後のところに書いてありますけども、括弧の中で、
1:02:01	物性値が変わる場合はそれを反映っていうことで、これ、今後そうします。実際に、六方ちい能を地盤モデル基本所上モデルがある程度、
1:02:15	固まってきて圧倒建屋に対する影響は、もう少し詳しく調べる段階で、実際に本当に線形と非線形については、
1:02:25	影響があるのかないのかを、後段で調べるというふうにも、前は受け取ってたんですけども、
1:02:32	実際、
1:02:33	今のこの段階で、
1:02:37	線形と非線形について結論づけるという、そういうスタンスなんでしょうか。
1:02:42	はい。日本原燃のオガセでございますそこもさっき申し上げればよかったんですが、今の段階で、こちらの次14のところを結論づけるというスタンスには至らないと考えてございます。というのもこの括弧内で書いてある通りのところでございますけれども、今の岩盤物性の検討のところでは二つかな。
1:02:59	ちょっと今後の変動点がある変動ポイントがあると思っております、一つは次14周りにつきまして追加調査によりPS検層替えられるというところがございまして、そいつを反映してあげる必要があるということ。
1:03:12	つまりが非線形の評価で線形投資典型の解析結果の比較をする上での設計、評価の解析の条件となる物性値も、その追加調査の結果によってPS検層結果に応じて変動するというのがございまして、その辺反映した上でのやり直し群そろえの結果に基づく再考察というものが必要。

1:03:32	なると思っております。あと先ほどの岩盤物性のところでご説明しておりました、断層によって複数の地盤物性をちょっと考慮してあげないと1次元上はちょっとは、
1:03:42	1個じゃ説明し切れないかもっていうようなところの話がありました、そういったところにつきましての影響というところの話が出てくるかと思えますので、この追加調査等が出てきて、さらにこの断層に関する検討の方もそれを反映したような形での、
1:03:55	ものが出てくるというところになりますので、そこからちょっと再解析をやってあげて、その線形と非線形の差について分析をしてあげると。その時には例えば先ほどから申し上げてるアノ断層のところの東端西端のところそれぞれこういう違いがありますねとか、
1:04:11	それらを踏まえて最終的にじゃあどの位置でもう線形でいいのか非線形見なきゃいけないのかというような考察をしてあげなきゃいけないというのが、今後やらなきゃいけないことだというふうに思っております。以上です。
1:04:22	はい。規制庁浜崎です。認識、理解しました基本的に、今まで、
1:04:28	説明されてきた、こちら連携とっていただき、認識等変わらないということは理解しました。
1:04:35	ちなみにですね丸一井については次14の話しか書いてないんですけども、Zについてはどう扱われるんでしょうか。
1:04:44	同じですか。
1:04:48	日本原燃のオガセでございます。Zにつきましては、本当にごく一部の周期体だけが少し山がちょっと高くなっていて高くなっているというか同じような終発周期特性を持っているスペクトルの高さがちょっとだけ違うというところで、
1:05:05	いわゆるこの合成の非線形性みたいなところによるものっていうのはやはり地盤の高周期特性に効いてくる一部がやわらかくなったり硬くなったりすることによって、地盤の固有周期みたいなところがずれてそういったものが変動することによるものだという
1:05:19	金、寄与する、床、地盤応答の周波数特性に寄与するものだと思っておりますので、これにつきましてはちょっと地盤がこうだからZのこのとある周期体でここだけ山が大きくなったという考察が非常にちょっと困難なのが事実のところでございます。

1:05:36	ですのでこれにつきましては②の、いわゆる他の保守性で、くれるかどうかというような判断のところのみを、Zにつきましては実施するつもりでございました。以上です。
1:05:46	はい。規制庁浜崎です。次 14 に関しては、
1:05:51	新聞において説明性っていうんですかね、説明し得るエビデンス数に相当するような状況が見られるということで、
1:06:04	その影響について、後段で
1:06:07	検討しますということでエージェントについては、同じような
1:06:13	科学的な根拠に相当するものが
1:06:17	見られないと。
1:06:18	発見できないということも踏まえて、
1:06:21	設計的な扱いについては②の方で対応したいというスタンスで理解しました。そこをしっかりとC
1:06:32	何ですかね、根拠を含めて、
1:06:35	ネットとG14 は、
1:06:38	ここで分離します。こういう考え方で方針を変えていきますっていうことは、きちんと説明してもらったほうがわかりやすいと思いますので、よろしいでしょうか。
1:06:49	はい。日本原燃の大橋でございます確かにおっしゃる通りだと思いましたがそのように、各Zノジリのそれぞれの線形非線形の結果を示した後、今後どういうことをやっていくかというフェーズの章が始まりますんでそこで、それぞれきちんと分かれて
1:07:04	説明方針が分かれてなるように、ちょっと資料の方を構成したいと思います。以上です。
1:07:09	はい。きっと規制庁ハバサキです私の方からは、2 歩ちいについては、
1:07:15	谷はありません。
1:07:17	以上です。
1:07:22	はい。
1:07:22	清長官ほか 2 ポツ 2 はいいですかね。
1:07:30	はい、じゃあ特になければ次にポツ 3 の岩盤の減衰のところで明確にお願いします。
1:07:39	清町の岸野です。
1:07:40	まず一番上の 4 ポツ-1 のところで、
1:07:48	例えば速度層断面による検討とか、追加調査結果を参照しての速度構造とか相関性とかですね、何を、

1:07:57	意味するのちよつとわからない。
1:07:59	なあというのが4での所感でした。
1:08:02	具体的にどういう検討を行って、
1:08:05	どんなアウトプットをイメージしているのか。
1:08:08	ていうのをまずご説明いただけますか。
1:08:11	はい。日本原燃のオガセでございますこちらにつきましては今ちよつとここは試験結果がちよつとまだ出ていないというところがありますのでちよつとまだ完成には現時点アノ次提出時点では至らないものっていうところが、
1:08:23	ある段階ではございますけれどもやろうとしていることにつきましてちよつとご説明いたします。今回このS波検層とコア試験をやったことによりまして、各場所水平方向の場所と、あとはコア試験だと、鉛直方向の深さ方向の減衰定数というところの傾向が、
1:08:42	各グループ個別にえられるというようなこととなります。となりますと、各水平的な広がりないし鉛直方向の広がりというところにつきましては、何かしら速度構造つまりがんがかたければ他、例えば減衰が小さいとか軟らかければ大きいとか、
1:08:58	もしくは、例えば同じ岩種でもコウ深さ2が深くなっていくと、何か減衰の傾向が変わってくるとか、そういったところがないかというところあるかどうかというところの確認を、まず事実として並べてみようというところがこの章でございます。
1:09:12	で、これちよつと実は9電さんのもともとやられてた検討をちよつと真似しているようなところがございますけれども、そういったところを踏まえまして、ちよつと今回やることにしているものでございます。で、深さ方向の依存性が、
1:09:26	仮になければですけども例えば今その地震観測記録を用いた同定なんかでも、一つの層で一つの減衰が結構厚い同じ等速度層でも一つの減衰に決めておりますけれどもそれが果たして問題ないとかかそういったような考察につなげていくというようなそういった目的で、
1:09:41	これは実施しているものでございます。以上です。
1:09:45	社長の岸野です。はい。何となくわかりました。
1:09:49	これ、7ポツの章においてこういったことを今後結果を追記しますっていう。
1:09:54	書いてあって、

1:09:57	言われたようなことっていうのは調査結果でそれを負わなくてもですねその部分は随時という形で残しておいて、考え方や方針等については資料上反映できるのではないかなと。
1:10:10	今のご説明を聞いてと思ったんですけど、そういった対応は来週グループで資料出されていないのでしょうか。
1:10:16	原燃のオガセですいません最初に言うべきでしたそういう構成にしております結果がちょっと埋まらないんですけどもこういうことをやっていきますということは記載する予告っていうか、そういう形で書いて結果は後述というような形では後述アノ。
1:10:31	ベツジという形で四角で書くようなそういうようなイメージで資料作っております。以上です。
1:10:36	セノクチです。はい。
1:10:39	あとは、
1:10:40	もう1点なんですけど、7ポツの所って今ちょっと本文7ポツってなんだ。
1:10:45	ゴトウてデータを並べて、地盤の実態を踏まえたっていった整理をなされて6ポツで、地盤モデルのパラメーターみたいな位置付けがあって、
1:10:57	7ポツで、また
1:10:59	調査結果についての詳細の分析みたいな。
1:11:02	行うというような
1:11:04	そんな位置付けだっけなっていうふうに今聞いてて思ったんですけど、村松ではそういう位置付けなんですか、それとも何か別の位置付けの中で、そういった説明も織り交ぜますといったこと。
1:11:15	どういう説明の繋がりになるのか教えてもらえますか。
1:11:19	はい。日本原燃の大橋でございますこれ正直ちょっと作る時にも悩んだところであるんですけどもいわゆるいろいろ地震観測による検討とかS検層による検討とかっていうところに、並べて一般的ある意味標準的な手法っていうところを、
1:11:34	の中に並列にこう並べるということを最初考えて作ろうとしたんですけども、やはりこの速度層に関する検討というのは、いろんなデータを横並びにしてこうなんっていうんですかね、整合性とかを確認するというようなそういうような、
1:11:49	フェーズのやりものだった検討だと思っておりますので、あくまでこのデータを踏まえた考察の章に、書くっていうのが今回は、ただしそうなのかなというふうに思いました。で、同じようなところで今のデータを踏まえた

	考察のところで、佐藤他の論文に基づく、それとの整合性みたいなところの話とかを書いていますけれどもそれと同じような位置付け
1:12:09	で、敷地内で取れているも能のデータを総合してみた時にそれらの整合性を確認してみるとどうですかというようなところを考察として7ポツに書くというようなそういう位置付けでちょっと今納めているところでございます。以上です。
1:12:22	規制庁の岸野です。迷いつつも7ポツでということが、今のお考えと、
1:12:28	ですか。
1:12:29	ということで来週所属資料においてそこら辺まだちょっと整理が不十分でひょっとしたら動かす込むというような、余地があるんであればですね来週の資料に対するヒアリングの説明の際にですね、
1:12:42	その辺りまで触れてますって言ったような説明を漏らしていただければいいのかなと思いますけれども、その通りその整理を進めておいていただければと思います。
1:12:51	はい。日本原燃の大橋でございます。今はどちらかというですいません7ポツが適切だろうと判断して、はい。書いているところでございますので、あまり悩んでこう動かそうとしているというよりは、やはりS検層しかり、
1:13:06	コア試験しかりを並べた上でそれらを回収しての考察の位置付けが適切であると考えて書いているところございました。
1:13:16	規制庁カミデですけど、7ポツって、現状もらってるバンドと計算書の取りまとめに係る検討ってなってるんですけど、その体と自体何か位置付けが変わるんですか。
1:13:30	日本原燃鷺津ごめんなさい私ずっとすいませんげっ心の負担のポツの話で、しておりました申し訳ございません。
1:13:40	宗夏帆本文の6ポツ7ポツのお話でしたね。申し訳ございませんちょっとすいません考えます。
1:13:48	規制庁小峰です。本文の話でいうと、5ポツに出てくる話。
1:13:54	その本文でも出てこない。
1:13:56	出てこないってことになる。
1:13:58	日本原燃のオガセでございます本文で参りも行きますと、いわゆるデータを並べるフェーズでの話の中でいわゆる物理的な意味合いとかその値、
1:14:10	敷地の特徴を
1:14:12	並べるフェーズのところでの話になると思っています。はい。以上です。

1:14:17	はい。清町長。
1:14:18	高水わかりました。ちなみにもう1個見て、あれって思ったのが
1:14:22	今回5ポツと6ポツで、位置付け違いますよね。手ウタ並べるところまでのポツっていうのが、
1:14:31	当間ようやく認識があったと思うんですけど、
1:14:36	別紙にいくとどうなの。
1:14:38	別紙2の3でこぼつの範囲なのか、6ポツも含めてなのか。
1:14:44	何かその辺どうしましょうかね。
1:14:48	はい。日本原燃のオガセでございますおっしゃる通りでそれもまたちょっと悩んでいるところです特にそうですね特に減衰のところでいきますと、
1:14:59	ちょっと進んだこと言っちゃいますけれどもどの減衰が、
1:15:06	例えば一定減衰がちょっとスペクトルを保守的に与えるとかいう話まで書いてしまっているんですけども、ちょっと本文の5と6がまざったようなところになってるのははい。認識しているところでございます。
1:15:17	ただ何ですかねその同じ減衰のこの別紙2-3の中で、ちょっとその切離しを別の資料にしてしまうのは非常にちょっと説明の座りも良くないのでちゃんとこのそれぞれの別紙の中で、
1:15:31	何ですかねそのデータの整理はここまで、何ですか設計に使うような減衰のパラメーターとしては、
1:15:40	ていうような設定のところを章を明確に分けてあげる必要があるなあと、本日の冒頭からの議論を踏まえて思いました。ちょっとそれは、
1:15:49	対応が必要だと思っておりますちょっとこの減衰だけではないとは思いますが、
1:15:55	はい。
1:15:57	長深見です。
1:15:59	ミニマムの対応としてはそのベースの中で色分けちゃんとしてねっていうのがミニマムなんだと。
1:16:07	なのか、あと私が言ったみたいに減衰データの検討で、えられた知見が、今度また岩盤物性に行ったり、線形性のところで使ったりと。
1:16:19	そういうところの視点漏れを起こしそうですねそれぞれでまとめちゃうと、そう思うと、一旦外に出してっていうのも一案なんですね。で、
1:16:30	資料のまとめ方は結局そちらのハンドリングなんですけど、まずはそのデータを並べる段階と、あとは設計としてどう用いるかどうか。
1:16:41	考え方の部分はちゃんと色分けしてくださいねということと、減衰農地券を原水だけ使うんじゃなくてちゃんと他のパラメーターの設定をするにあ

	たっても視察内容がないかっていうのはちゃんと考えてくださいねっていうところまではやってください。大丈夫ですかね。
1:17:01	はい。日本原燃オガセでございますやるべき県、着目する点は力よ。よくわかりましたちょっと資料どう最後構成するかは、はいきちんとこちらの方で考えたいと思います。はい、拝承です。
1:17:17	はい。社長。
1:17:19	音波II-3の①について、あと一つだけ。
1:17:24	お願いします。
1:17:25	2行目の括弧書きでパラスタも視野に入れた検討実施って書いてあるんですけども、
1:17:32	視野に入れたっていうことはやるかやらないかってのはあまり定かでないような感じもするんですが、これは具体的に何をやろうとしているのかっていうのを説明いただけますか。
1:17:48	はい。日本原燃のオガセでございますこちらにつきましては今こちらの地震観測腔の伝達関数に基づく同定というところに対しまして、その周波数の信頼区域というところが長周期なんかっていうところが、は
1:18:02	入っていないというところが今ありますけれども、ただそれっていうのは次耐震評価におきましては1秒以上の5秒1本につきましては使いますので、そこでも同じような減衰をそのままの
1:18:14	比例で伸ばしていたものを使っていいのかというところをきちんと説明すべきものというものでございます。このパラメータスタディも視野に入れた検討を実施というふうになんか書いてあるところでございますけれども、現時点におきましてはこちらの実際に獲られた、られている伝達関数ないし同定された伝達関数
1:18:32	につきましては、いわゆるその長周期の方、1秒以降の領域というところが非常に振幅振幅じゃない増幅率が小さいというところになっているということでまたそこにつきましてはの地震につきましては、次、
1:18:45	それこそ施設、建物への入力っていうようなところのことを考えたときに、もうその建物の固有周期よりもずっとなんすかね長周期側にあるということ、あと最後に、やはり長周期の地震動というのは波長が非常に長いものですので、地盤を通る時のパスパスというかサイクルが非常に少ないところがありますので、
1:19:03	そもそも減衰に全然効かないところですよというようなところを、まず定性的にせ生成定常的に説明してあげることが重要だと思っておりましてちょっとそういう考察を今開いたところでございました。以上です。

1:19:15	成長の中すいません、今言われた考察っていうのは、括弧の、
1:19:20	中身のことを言われているのか、その括弧の中身の手前でそういった定性的、定常的な考察をした上で、必要であればパラスタをやるっていう意味なのかどちらなんですか。
1:19:34	はい、日本原燃の大橋でございます考え方といたしましては今、岸野さんがおっしゃったのに近いかと思ったんですけれども、そういった施設の固有周期ですとかそういったパスの影響とかパスじゃないすいませんサイクル数の影響とかを考えたときに影響がある場合にはきちんとパラスタで確認をすべきであろうというようなそういうようなところを書いた上で、
1:19:51	十分にこちらにつきましては小さいだろうという影響が小さいだろうというようなところでは、今は書いているところでございます。
1:19:58	すべての基準ですと、はい。ということは今、検討している状況としては、このばらさってのやってないと。
1:20:06	その前段階でも十分説明がつくというような整理になってる。
1:20:10	そうですね。
1:20:15	はい。県のオガセでございます今ははい、そういうふうになってございます。説明の中で、資料反映箇所を見ますと、この①番って具体的な反映箇所ご記載となっていて、
1:20:25	来週の資料に反映されてくるのかどうかよくわからないんですけど、これは来週出てくるんですか。
1:20:31	日本原燃の大橋でございますごめんなさいこちら具体的な反映箇所は今後記載というのはすいません今回徹底的になくしたつもりだったんですが、1個残りました誠に申し訳ございません。これにつきましては伝達関数のところなので6ポツ3ポツロックですかね、のところに記載を追加するように考えてございます。こちら資料は、
1:20:51	その部分の誤記でございました。申し訳ございません。
1:20:54	先生。
1:20:56	定性的
1:21:02	ですか。
1:21:03	そのあたりですね、これ、
1:21:05	御説明パターン。
1:21:07	概ねとか返りが無い
1:21:09	形で丸めるような説明だと、多分また、ヒアリングの際にいろいろと質疑が入るかと思えますんでそういったことができるだけないよう、

1:21:16	準備をしていただければと思います。
1:21:20	減衰定数系は私は以上になります。
1:21:25	日本、日本原燃の疇津アノ今野健了解いたしました
1:21:29	必要に応じて再検討、再検討も含めて、はい。内容の方検討いたします。
1:21:36	ですから、規制庁浜崎です。新野さんですね。はい。4-7、まず4-7ですけれども、これ
1:21:45	今入力動の応答スペクトルの比較ということで、
1:21:50	最低減衰が短周期比較的保守的ということで保守、一定限数、主は推定でも問題ないんじゃないかという、
1:21:59	ような、
1:22:01	シナリオになってるんですけれども、本当ですかということでオートスペクトルではなくて、入力道路フリースペクトル、スペクトル比って書いてあるんですけど、フーリエスペクトルルーで、
1:22:12	バイリニアリニア行って、手話推定での比較を、
1:22:19	来週の資料なり、今後説明されるというふうに理解しているんですが、そういった予定でよろしいですか。
1:22:29	日本原燃の大橋でございますこちらのすいませんご指摘の趣旨といたしまして、いただいご指摘いただいた際の趣旨だ、私が認識してた限りだったんですけれども、今回の伝達関数を再現するような、
1:22:45	地盤物性と減衰定数を同定しましたと。それが伝達関数というのはすなわち解放基盤分の基礎したないしの内とかの
1:22:55	フーリエスペクトル比に該当するものだと思いますが、それをきちんとチェックで入れたときにもちゃんと線形で入れているところになりますけれども、きちんと同じフーリエスペクトル比すなわち伝達関数できちんと上がっているかの確認のためという認識でございましたので、
1:23:09	その振った時のフーリエスペクトル比と同定した時の伝達関数を比較して、ちゃんと重なってます同じ地盤でやってますというところをお示しするものだというふうに認識をしてございました。
1:23:21	のでそういうふうにちょっと今資料は作っていたところでございます。以上です。
1:23:25	規制庁ハバサキなんです、以前のヒアリングの時に、
1:23:31	こちらからの問題意識としては、伝達関数については短周期成分、リニアバイリニアに比べて周波数一定減衰っていうのは、短周期成分の伝達関数って小さくなってますね。

1:23:45	あと減衰に関しても短周期成分は一定減衰が、リニアバイリニア区に比べると大きくなりますねと。
1:23:54	それにもかかわらず、入力動の応答スペクトルは、他周期成分一定件数がリニアバイリニアよりも大きい傾向が示されてますねと。
1:24:06	で、
1:24:07	それは何ですかということに対して、それは応答スペクトルは、伝達系関数の傾向とはまた別の、
1:24:18	傾向を示したからです。
1:24:21	ということで、フーリエスペクトルならば、
1:24:29	伝達関数、
1:24:30	或いは減衰が一定減衰が大きくなる傾向が、フーリエスペクトル。
1:24:36	入力とかフーリエスペクトルならば、それが反映された結果になります。
1:24:42	ということで、要は、オートスペクトルと逆の傾向ですね 3 者が、
1:24:47	それがフーリエスペクトルでは示されませんということで、古井スペクトルを書いてくださいねっていうことでこちらから指摘したというふうに理解してます。
1:25:00	その結果が今回説明されると思ってますけども、先ほどの小川さんの説明と、今のこちらの理解っていうのは、
1:25:10	合ってますか。
1:25:14	はい日本原燃の大橋でございます目的というかはい。目的っていうんすかねにつきましては同じだと思っております。はい。
1:25:25	わかりましたアカセは、規制庁からイダわかりましたアノ。
1:25:28	結果は来週の資料に出てくるわけですか。
1:25:32	はい。日本原燃大橋です。これは出てきます。はい。そうですねフーリエスペクトル比を書くと、結局伝達関数と同じ線ですねっていうものしか見えずにあまりこう見て、意味のないものになりますので確かに今の目的踏まえると浜崎さんおっしゃるようにフリースペクトルそのもの、
1:25:50	一定減衰とリニア減衰等で重ねて書いてあげた方が、確かに目的に沿うなと思ったのでちょっと切り換えます。発注者はそうですね
1:26:01	フーリエスペクトルを、を示していただいた方が、
1:26:05	ダイレクトにわかりますので、
1:26:08	ちょっと来週に間に合うかどうかあるんですけども、ちょっとその結果の説明の方お願いしたいんですけども、今、大橋さんの方で口頭でも説明できます

1:26:19	結果としては、応答スペクトルとは逆の結構傾向になるわけですから入力度のフーリエスペクトルの傾向としては、
1:26:28	日本原燃オガセシマ逆の傾向というよりはフーリエスペクトル比、つまり伝達関数ですね、と同じ傾向を示しますだから下、数理スペクトル比じゃないごめんなさい、減衰。
1:26:40	じゃない、伝達関数上を、
1:26:43	小さい減衰になってれば数理スペクトル上その周期ごとは大きく出るし、逆だったらその逆の結果になるというような、そういったところがフーリエスペクトルから見えます。アオキちゃうわけですからちょっと話。
1:26:55	空中戦になっちゃう可能性があるんで、フーリエスペクトルだと、入力のフーリエスペクトルだと、一定減衰が梅林やリニアよりも小さくなる短周期成分が小さくなるというふうに、
1:27:08	理解してますので、来週の資料、できるだけフーリエスペクトル例の説明の方をお願いしたいと思います。以上です。
1:27:17	はい。日本原燃の大町でございますかしこまりました。
1:27:21	はい、北林です。
1:27:23	それとですね次が、
1:27:28	4-8 ですけども、
1:27:31	これはヒアリングで2度ほどお話したかと思えます
1:27:37	今回追加ボーリングの位置で、特に建屋の近傍については、
1:27:43	特にその建屋の影響ですね、観測カーにおける建屋からの反射の影響を、除去されてますのでその影響がない形で、
1:27:55	計測されてますねっていうことを確認してくださいというところで、
1:28:00	それに対して、
1:28:02	回答がですね分析結果から説明すると、派遣の分析結果から説明するという回答になってるんですけども、これも来週の提出の資料の中で、
1:28:14	ハケの分析結果からの説明が追加されているという理解。
1:28:19	でよろしいんでしょうか。
1:28:34	当然政権のものでございます。
1:28:36	今ちょっとこのデータをですね、まだまとめてるといいますか、今、どちらかと下の減衰の方を先に整理しております、
1:28:46	今回のちょっと審査会合資料の方にもですねちょっと新しく記述させていただいてるんですけども、表層の方ですねとってない。それを表層の方でですね減衰に使ってない。

1:28:58	部分がですねこの影響の部分にあたりまして、その分析結果というやつはですね、次の機会にですね、減衰の結果もあわせてですねお示したいというふうに考えております。
1:29:12	はい、橘田浜崎です。わかりました
1:29:16	ここ反映方針でしたら、分析結果って、どういう分析を行って説明する予定とかですね、より具体的な説明の方欲しかったんですけども
1:29:29	今の犬野さんの話だと、どういう分析をすることによって説明する予定ですって言うし、説明は来週の資料には書かれているということによろしいですか。
1:29:48	当然設計のウノですが最後の言葉で方針を示せるかということでございましょうか。
1:29:55	規制庁浜崎ですはい方針、どういう分析をするという方針なり、分析計画でもいいですけども、
1:30:07	はい、東電設計のものでございますはい、承知いたしましたその辺の技術をですね、付け加えたいと思います。
1:30:13	はい、施設ヤマザキです
1:30:15	わかりました現状のステータスというのとあと来週提出の資料を踏まえて
1:30:21	確認したいと思います。
1:30:24	はい、瀬崎です最後 4-9 ですけども、これは地震観測データに基づいて、減衰を設定する上で、
1:30:34	地震観測空港の位置が、例えば現状ですと、東西中央 3ヶ所の
1:30:40	代表として、例えば中央市の観測記録に基づいて、中央地盤全体の減衰の設定に、
1:30:53	データを使うという方針というふうに理解してます。当然、観測孔と、
1:31:03	中央地盤全体では、地盤条件が違って来るわけなんで、その観測孔と全体という、その両者を結ぶ考え方、設定の考え方ですね。
1:31:15	について説明をしてくださいということに対して、設定の考え方を示しますと、
1:31:22	恩返しになってるんですけども、
1:31:24	これ具体的にどういう考え、
1:31:28	何をもって
1:31:30	設定の考え方を示そうとしているのかそのまさに対応方針、
1:31:34	反映方針っていうものについて、説明をしてもらいたいんですけども。
1:31:40	いかがでしょうか。

1:31:42	はい。日本原燃のオガせてきていただきます。ここの、すみません最終的な物理的な意味合いとか各地点のデータのとれてる位置とかを踏まえた考察というところにつきましてその結果につきましては
1:31:57	追加調査結果を踏まえて、やっていくところのつもりでございました。今何をやろうとしているかというところでございますけれども、今、今ハバサキさんおっしゃいました通り地震観測記録に基づく検討というのは中オオニシヒガシそれぞれ1点とある1点のところ、
1:32:13	のデータというふうになっているというところでございますけれども、今回逆にそういうもっと細分化したようなマイクロな目線で、減衰に関するデータを得るという行為として、まさしく追加調査を行っておりますS波検層が、
1:32:28	各グループでえられることに今後なっているというような形になってございます。やはり我々としまして敷地における実態というかデータを踏まえたパラメータという観点ではやはりまず、各場所の位置の減衰定数を把握することが始まりだろうというふうに考えますので、
1:32:46	いわゆる本文のカッコ5というふうに冒頭から申し上げているデータを並べてあげるフェーズのところにつきましては、そういった各部分各位置におけるデータというものをきちんと個別に出してあげる必要があるというふうに考えてございます。
1:33:01	その上で地震観測記録を踏まえたようその減衰定数というものを同定してございますけれども、とある1点のデータとはいえある程度の広がりを持った地盤の振動特性を踏まえたものとして扱うというところにつきましては、まず地震観測という概念からしてもそんなにおかしくはない話だと思っております。
1:33:19	ただそれを、果たしてそれじゃそのいわゆる中央地盤とかいうエリアに果たしてすべて反映していいかというようなところの観点で、先ほど申し上げましたS検層の個別の位置におけるデータ。
1:33:30	と、今回同定した地震観測のところの減衰定数というものを比較してあげるということが必要だと思っております。その比較のときには、例えばやはり周波数依存特性がどうなっているとか、あとは減衰定数が縦軸の大きさとして、
1:33:43	何ですかね地震観測記録のもので代表しても大丈夫そうかとかそういうようなところの検討をやっていくというようなところそれがまさしくポートの方から申し上げている物理的な意味合いとか位置関係なんかも踏まえた検討というところになると思っておりますので、

1:33:59	そういうのを整理して芸するというのが、いわゆるデータをコウナベタてるというところの結論になっていくのかなというふうに考えてございます。
1:34:07	以上です。
1:34:08	はい。規制庁尼崎です。今小幡さんが説明されたような話っていうのは来週の提出資料上に記載はまだされてないんですねそうすると。
1:34:23	はい原燃のオガセでございますデータがそろってからやるべきかなあと思っております今野アノ。
1:34:30	今回お出ししております審査会合資料と今は同じぐらいのトーン特になんなんですかね家結果とか結論とかみたいなのところどういうまとめ方をしていくかというのはちょっと今、この2-3には、今は、
1:34:44	ないところでございます。はい、規制庁ハバサキです。説明は理解しましたんで、どういうまとめ方、その結果っていうのは、当然後段に出てくるんですけども、
1:34:54	今言われたようなことがまさに対応方針反映方針だと思いますので、今後単に考え方を示すっていうんじゃなくて、具体的に、これこれこういう、
1:35:05	条件のもとにこういう考え方を示す等ですね、説明の方をしてもらった方がいいと思います。よろしいでしょうか。
1:35:16	日本原燃のオガセでございますちょっと今、すいません章番号忘れてしまったところなんですけど別紙2-3の、
1:35:26	どこだったかな。
1:35:28	確か3ポツとかの章だったかと思うんですが確かサンポ津さんの敷地における減衰定数の評価方法とかいう所だったと思うんですが、そこに各Dた。
1:35:38	が持つ物理的な特徴とか評価位置の特徴あくまで三つでしか取れてないとか各グループでトレイルものですかっていうところを整理しております、その中で、各検討結果をどういうふうに組み上げていくかみたいなのところはちょっと触り的に方針として書いているところがございましたので、
1:35:55	そこをちょっともうちよい具体化していくのかなというふうに思っておりますので、今ちょっと最低限の方針としては書いているんですが、これをちょっとデータの出たところを踏まえて今後深めていってそれに対応する結果を変えていくというようなそういうようなところを考えてございます。以上です。

1:36:14	はい、伊勢沢木です今タシロ 8 の方にはそう書かれているということなんですが、ちょっと私もしたのはこの反映方針のですね資料自体ですね 9 日付で提出されてる。
1:36:26	ここにも、もう少し丁寧に説明をしてくださいという趣旨ですのでお願いします。で、ちょっと追加ですね、今の件にも関係するんで、確認したいんですけども、先ほど大橋さんの方で
1:36:39	物理的意味合いというような話が出てきたんですけども、原水って本来ってというか従来は岩種ゴトウによってのイチカワを、
1:36:51	機器基準化されたイチカワのような形で岩種ごとでの設定というのがあるわけなんですけども、
1:36:57	現状で須藤、あまりその岩種ごとしていう概念が入ってきてないんですけども、
1:37:04	今後その何らかのその岩種に応じた、特性も踏まえた評価、
1:37:13	ていうかですねその考え方が示されるという。
1:37:17	りか良いでいいんですか。そこら辺、準備状況について説明してもらいたいと思うんですがいかがでしょう。
1:37:25	はい。日本原燃の大橋でございます正しくそこら辺の話がその物理的な意味合いとかのところの中でのキーになるところだとは思っているところでございます。今ハバサキさんおっしゃってございました岩種ごとに整理されているというところにつきましては材料減衰なんかにつきましてはおっしゃる通りコア試験コア試験じゃない 3 軸圧縮試験ですが、
1:37:44	というところで岩種ごとに統計的に整理されているものというところでございます。一方で地盤全体の振動計つまり先ほど申し上げた 3 軸圧縮というのはあくまで、
1:37:55	材料減衰に特化したものでございまして、今回我々着目しましたが地盤の散乱減衰といったところにつきましてはまさしく岩盤の境界みたいなどころでもやっぱり起きているそういった散乱現象というのが起きているというところでございますので、
1:38:10	岩盤の中だけで個別に閉じていく項目ではない。あくまでその地盤全体としての上から下までのその層境界みたいなどころとかソウノん積み重ねみたいなどころが入ってくるようになっておりますので、
1:38:22	ある程度やはりこうまとめた形じゃないとちょっとあの評価がどうしても散乱減衰というのは特定できない。逆にそれを割っていかうとすると適切にどこの境界でどういう算段が起きているかというところが、何かどっ

	かの層に押し付けてしまうというようなそういったような検討になってしまいますので、
1:38:37	そういった評価のターゲットにしてるのが散乱減衰だったらちょっとこういう、今申し上げたような特徴があるので、そうはまとめたりもしますよねというようなところの話を書いていたりとかっていうふうな、そういった何つうんすかね組み立てを考えております。さらに、
1:38:55	さらにあれそうだとコア試験とかそういったようあとSR検層とかですね、そういったようなところで各深さの減衰定数みたいなのが見えてきたり、あと先ほど岸野さんとのやりとりの中であった速度構造との比較というところである程度深さ方向の傾向というところもとらえられるというふうに考えておまして、
1:39:12	その深さ方向の傾向の中で、やっぱりそこで深さ方向に差があるようだったら、分けて考えるべきだねというふうになりますし、深さ方向でやはり差がないというような結果になれば、それはやはりこれはまとめて算段も含めたある程度一括の値として用いることに問題はなかろうというような考察につなげるような、
1:39:30	そういったようなところを含めての物理的な意味合いというところの考察を考えてございます。すいませんちょっと口頭で長くなっちゃいましたが、そういうちょっと意図でやっております。
1:39:40	はい。規制庁浜崎ですそこら辺がですねかなり最終盤に関しては重要になってくると思い、思います。
1:39:48	あまりその境界面でしか、そんな譴責が生じないとかそういう話じゃないと思いますし、あまりその材料減衰と散乱減衰云々っていうのをですねような形、あまり前面に出すんじゃなくてやはりここは、
1:40:02	それ考え方もあるんですけども、そういった趣旨での、今、作業をやっているというふうには認識してませんのでですね。
1:40:12	そこら辺、
1:40:15	最終的な設計を地盤モデルを設定するの減衰を設定する上での適切な考え方そこには物理的な意味合いが裏付けがありますと。
1:40:26	いう観点でですね、
1:40:29	なんすかね。あまりそうやってもいけないことを、説明に加えるとかですねそういうことをしない範囲でですね、適切な説明をしてもらえればと思っています。
1:40:40	今後、そういう中身についてはいろいろ議論したいと思います。
1:40:45	よろしいでしょうか。

1:40:47	はい。日本原燃尾鷲ですかしこまりました。
1:40:50	はい。既設浜崎です。私の方からはですね 2-3 減衰に関しては以上になります。
1:40:58	はい、規制庁過密他規制庁側から減衰のところはいいですかね。
1:41:05	はい。特になければ 2 ポツ 4 の表層地盤ですけど、確認あればお願いします。
1:41:12	はい。規制庁の岸野です。
1:41:14	2 点ほどあります。まず、5 ポツはいひいの、
1:41:19	記載なんですけども、六ヶ所層とか造成モリ度とかの物性の扱いは、
1:41:28	ここでは、この別紙 2-4 では使いませんよっていう、その方針は、
1:41:34	理解できたんですけども、一方で今後の話として、道道の解析断面とかニワ六ヶ所層が出てきますし、
1:41:43	造成モードが出てきたかどうかっていうのはちょっと定かではないんですけど、
1:41:47	これについては物性時ってどういったものを使う。
1:41:52	現時点で考え、
1:41:54	あるのか、
1:41:57	いずれこういう説明が必要になってくるかと思うんですけど、けども見通しがあれば教えていただけますか。
1:42:06	当然設計のものでございます。第 1 回目のときには六ヶ所創造性モリ度しか出てきません。造成モデルとあと、今回のですね
1:42:18	埋戻し動が出てきて、液状化等の話をですね OB の方でしたというふうなことがございますで、今後ですね表層につきましてはですね、多分、熊井の方ですね
1:42:32	高位段丘等含めたですね今、
1:42:37	PHと言ってる 4 本曾の物性が出てくると思いますので、そういうものですね今後、屋外構築物等の
1:42:48	評価に入った時にですね設間に入った時にですね、同様の形で随時していくというふうなことで考えております。
1:42:56	清町の内野です。
1:42:58	形とおっしゃったのは、今埋め戻し分については、施工時期や場所によらず、こういったようなものを使いたいんだってのが原燃の主張で、何か、

1:43:08	それに沿った根拠データを今積み上げていますけども、それと同じで六ヶ所層とかについても、敷地全体として一律の物性値を使えるんだという方向でデータを積み上げた説明をしようとしている。
1:43:23	ということでしょうか。
1:43:27	当然設計の宇野でございます。今のところですね、事業許可申請の時に出しております。物性値を基本にですね考えるというふうな、
1:43:39	ことで考えてるんだと思います。
1:43:43	セノクチです。はい。それは、敷地内、一律のものとみなせるといったことはモップ化段階の中で整理済み。
1:43:54	んなのかもしれないんですがそういったものに沿って、説明が今後されるという理解でよろしいんですか。
1:44:02	当然関野でございます。各施設によってですね、その辺のところを説明していくのではないかとこのように考えております。セトないかっていうのはどなたが今お考えになってる。
1:44:16	現時点で原燃としては考えを持っていないのかどちらでしょうか。
1:44:20	すいません今当然設計として発言してるものですから、
1:44:24	そういうふうな物の言い方をしておりますが、原燃としての立場でおりますと
1:44:32	そのような分析をして評価を説明していきたいというふうに考えております。
1:44:38	清町の岸野です。
1:44:41	とりあえず今の考えは、
1:44:44	わかり。
1:44:46	明日、
1:44:50	で、その検討に際してですねちょっと整理が一つ必要になってくるかなと思いますのが第1回申請のPA建屋で造成モリとと六ヶ所層が登場してきていて、
1:45:00	これはあの敷地全体の統一物性だ。
1:45:03	直近の物性値を使っているんですね。
1:45:06	ですので、それを踏まえて今回の第1回申請があつてその中で、全体統一のものを使うということであれば、当然それとの推奨といいますか、
1:45:17	考え方の違いの整理というのにも必要になってくるかと思えますので、それを念頭に置いて説明の準備をしておいていただければと思うんですけど。
1:45:25	この点については何かお考えとかありますか。

1:45:30	はい、東電関野ウノでございます。おっしゃる通りだと思しますので、そのような方向でまとめていけばというふうに考えております。
1:45:40	政策シゲマスあんまり具体的なことがちょっと聞けなかったんで、なんですけども、今後準備をしていくということで理解いたしました。よろしくお願いたします。
1:45:52	あともう1点の確認ですが、
1:45:54	5ポツ-5の内容についてですけども、
1:46:01	2行目に、流動化処理同号配合粒度六ヶ所のベントナイト混合度と三つ挙げておられます。コウ配合流動化処理については以前までのヒアリングの中で、
1:46:13	ここにこういったものがあるみたいですけど検討対象にしないのはなぜですかと。
1:46:18	考え方の説明を求めたところ、
1:46:21	特に、
1:46:24	そうですね、説明というよりはもう入れますというような感じで、この回答になっているのかなと。
1:46:31	で、そこにベントライと混合度っていうのもあるんですが、あまり、どういったものになるかをよく知らないんですけども、この3種類に絞って、今後検討していくと、方針を決めた理由といいますか根拠というのを教えていただけますか。
1:46:48	はい。遠田実験物でございます。これはですねジェットを、前回、この
1:46:56	課題質問いただくコメントいただいた時にはですね、AZと13時13間はですね流動化処理どうだけではなくて、コウ配合流動化処理動及びそのベントナイト混合度が入っていると。
1:47:09	今回、流動化処理の当時山の話でまとめてあるけども、このジェット時中山間の、この物性値についても評価しないのかというふうに、
1:47:20	私どもではですね、そういうふうに受け取りました。それでですね、基本的にコウ配合流動化処理でございますが、これの実際のさ、あの資料を見してみますとですね、
1:47:32	AVSが800というふうなものでございまして、我々が流動化処理の第二グループとしたものとほぼ近いものだと思います。ただ、
1:47:44	少しですね、セメント量が多いものですから、我々また、それに近いセメント量が入ってる物性値として改良地盤Bのものをですね、

1:47:56	流用させて解析をさせていただいております。あとはベントナイトにつきましてはですね今後につきましては、これベントナイトで固結しているものではございませんので、
1:48:08	そういうものについてですね、これ等が当社の方のですね原燃さんのですね、埋設事業の方でですね、ベントナイトでく逃げる呉部位部位湾のナトリウム型ですが、
1:48:22	それで今回使ってるものと同じものがございまして、その動的変形特性を用いましてですね前回の流動化処理の流動化処理の時アミノ評価と同じように、
1:48:34	にですね、ずっと次 14 缶をですねその物性値を入れて、解析を実施しておりますので、その温度の答えを持ちまして同様の評価といえますか。
1:48:46	実際にですね 1 次元で入れるんだったらばこういうふうな評価が必要でよろしいでしょうかというようなことをご説明、ご説明させていただいております。
1:48:56	うちのですね、
1:48:58	三種類に選定した理由としては、このAとG14 款に実際に存在する。
1:49:06	各種改良的なものを網羅したということで、
1:49:12	理解する。
1:49:15	はいと同じ形のものでございます。はいその通りでございます。はい。
1:49:21	検討対象にしたということであれば理解、
1:49:24	できました。その物性の設定とかですね、データがないので流動化処理のBのものを流用とかその辺りはですね、その適用性とかですね。
1:49:35	当然、本当に使えるのっていうような説明が求められるかと思えますんで、それはちょっと説明の方は準備をする、されているんだろうなと思えますけども、しておいていただければと。
1:49:47	ます。はい。私、
1:49:51	配当で設計のものでございます。はい、承知いたしました。
1:49:55	はい。規制庁神です。表層も最初に話してみましたみたいに本文 5 ポツのパートで説明する範囲等あと 6 ポツ、設計に使うものとしての、
1:50:10	パートで説明する範囲っていう区分けの考え方はどうなりますか。
1:50:19	はい、東電設計の小野でございます。5 ポツの方ではですねやはり今回追加データもございまして、そういうものも含めまして実際にこういうふうなデータがえられましたということで、

1:50:32	5 ポツの方で評価させていただいて、6 ポツの方ではですねそれを用いてですね、どういうふうな物性を設定するのかということをご分けて記載させていただきたいというふうに考えております。
1:50:47	同規制庁亀井です。具体的には
1:50:51	埋め戻し度は、全体、一つの物性で設計に使えるっていうのが考えなんだと思いますけどその辺の話は、6 ポツであって、5 ポツはまずはそれぞれのデータが起こった感じですね。
1:51:05	いうのをまず並べるという形ですか。
1:51:09	はい当然設計のものでございます。伴。その通りでございます。6 ポツにつきましてはですね、今回追加のデータも含めてですね、どういうものを設定していくのかというところをですね、
1:51:21	設計上の話も含めて記述していきたいというふうに考えております。
1:51:27	はい。規制庁深見です。
1:51:29	あとその、
1:51:30	ちょっと言葉の意味を確認したいんですけど、ポポーⅡ-6の、
1:51:39	下から3行目から2行目にかけて、
1:51:44	これ
1:51:45	要は、全体平均とするのかあと直下の表層でやってみたらどうなのみたいな話とこですけど、
1:51:53	ちょっかぶせ直下っていう近傍だと思んですけど、直下物性のようならばつきの範囲内の単独コウによる物性値っていうのがあって、この
1:52:06	ばらつきの範囲内の単独校っていうのがよくわからなくてですね、どういう意味でばらつきの範囲だと言っているのか、ちょっと意図を教えてくださいませんか。
1:52:19	はい。大田実験のウノでございます。ここの意味はですね直下物性という言い方はちょっとふさわしくないのかもしれませんが、もともと参考の3にですね、今回のデータセットの物性値をですね、
1:52:34	示してございます。その参考資料は参考の3ではですね、各校で一つしかデータがないというふうなことで、そのデータを使ってその表層を、
1:52:48	評価するというふうなことをしていましたんで、それで前回のですね、前回申し上げません既往のですね、表層の物性値埋め戻しの物性値評価がそういうことでしたが、
1:53:02	今回追加してるものというのはですね、追加のボーリングをですね1メーターごとにとっております、

1:53:09	結果から申しますと深さ方向依存の形が見えております。ですのでそういう深さ方向依存の形が見えるものなんだけども、前はトータルとしてこの埋め戻しを評価するという統計学的な数量があるからいいというふうな、
1:53:26	考えて取ってたんですけども、そういうことも含めてですね、この5ポツ6のところですね今のツジの追加のですね、試験も含めましてですね、もう少しわかりやすいように書きたいと思いますので、
1:53:39	今ちょっとこれの今回、書かせていただいておりますが、もう少しですねそういう追加のデータも含めた形でですね、ちょっとはっきりしたことを書きたいなというふうに今、思っております。以上です。
1:53:53	はい、規制庁パミスわかりましたこの部分は
1:53:57	なんで、全体平均でいいんだってということに対して、ずっと統計的に平均が正しいんだっていうのはな、話で結構平行線をたどった。
1:54:07	ところをまた係と同じようなことを言ってるのかなと思ったんですけど、実態としては追加調査が進んできた中で少しロジックというか方向性がもう少し明確になると。
1:54:21	いうことだと思いましたので、それはあれですよね相手の追加調査の話でいうと、来週出てくるものにどこまで見えてるかっていうと、どんな感じですか。
1:54:33	当然のものでございます。申し訳ございませんが、来週出すものにはですね追加試験の結果は一切まだ載せてございません。今ちょっとコアラボといいますか
1:54:45	試験をしている方法でですね、例の岩石コア試験の方を優先しております、ちょっと ρT の方がですねまだ整理がちゃんとできてなくてですねこちらの方に、
1:54:56	上がってきてませんのでちょっとその辺も踏まえてですね、次回に、次回の耐震08の方で詳しく説明させていただきたいと、いうふうに考えております。
1:55:08	規制庁カミデです。
1:55:12	そうすると、来週出てくるものには、従前の説明がそのまま載ってるんだけどこれはまた変更し、更新しますってそういうステータスで乗ってくるってことですか。
1:55:25	当然設計のウノです。そう。前回からですね、ちょっと今回わかりそうなことも含めての売りになってまして、前回と全く同じものではございません。

1:55:41	はい、規制庁神様ちょっと程度問題はあれだとしても
1:55:46	できれば追加調査を踏まえてこういうことを考えていくってところまで書いてある方が望ましいです、そういうふうな、
1:55:57	ことで書けないのであっても今後こういうところは今見直してますっていうステータスを変えてもらわないとですね結局市場が出てきて、前と同じことになったな、何で変わってないんだとか。
1:56:10	どうしたんだみたいな話がまた通なアノや、やらなきゃいけないのでその辺りはないように、明確、資料、しっかり
1:56:19	ステータスはわかるようにしといてください。
1:56:24	はい、当然設計のものでございます。承知いたしました今回の位置付けをですね、はっきりさせて、示したいと思います。
1:56:34	はい。規制庁、上出です。他競争でありますか。
1:56:38	はい。規制庁浜崎です私の方から1通後の方ですね。
1:56:42	これーヒガシの3施設について流動化処理場の側面地盤ばねの剛性の設定については根拠と妥当性を説明するっていうのが今回の方針なんです、
1:56:55	具体的にどういう根拠を用いて、何を説明されるんでしょうか。
1:57:01	はい。日本原燃のオガセでございますこちらにつきましては今の記載といたしましては、今お出しする資料の記載といたしましてはこの耐震建物08地盤モデルのこの補足説明資料の観点では、
1:57:13	あくまで今回設定した側面地盤に基づいて、地盤ばねを設定するところと、それについてその適用性というところを、説明今後していくというふうな記載にしております、その説明箇所としましては、
1:57:28	実際に今回の地盤の物性を、側面流動化処理上の地盤の物性を決めてあげて、それに基づいて地盤のバネを設定して再度解析というか耐震設計をやるということになるものになるわけなんですけれども、
1:57:41	設定というところの考え方につきましては、ちょっと資料の3をちょっとすいません失礼しましたが耐震建物別の附属説明資料の地盤ばねの設定の方で、きちんとその根拠については整理するというふうなところで、整理をさせていただきたいと思っております、この耐震建物08の中では、
1:57:59	ちょっとこのアノばねの物性剛性がこう決まってこういう根拠でというところはちょっと1回ちょっと、0808じゃないアサノばねの附属の方にパスする形の方でちょっと書かせていただきたいというふうに思っております

	た。以上です。はい規制庁ハバサキです説明は理解しました様は耐震08の
1:58:16	方ではなくて側面地盤ばねの補足説明の方に移動させるということなんですけれども、実際今もう小形さんから話があったんですが、
1:58:27	側面地盤ばねとしては流動化処理が側方地盤一応にあるものとして県としては設定したいということなんですけれども、
1:58:38	それが本当に妥当なのかどうかという観点では、例えば、バネ自体を、FMで、流動化処理市様と、あと、
1:58:50	一部の領域が流動化処理、その外側、エイジア間というような条件で、ばねを比較して、バネの間違いありませんよって、
1:59:00	いう検討をするのか、或いは、さらに建屋につけて、建屋応答を見て影響がないということまでされるのか、そういう検討方針について聞いたかったんですけども。
1:59:15	今のところそういう検討方針はあるんでしょうか。
1:59:20	はい。日本原燃のオガセでございますちょっとすいませんまだ方針として書ける段階ではないというのが実態でございます。実際に場面を設定してみて、はい。それからちょっと話じゃないとちょっと設定しにくいなというところだと思っておりますタダノ。
1:59:34	カワサキさんが今おっしゃってありました懸案は無限で
1:59:38	流動化処理動を考慮することが、のぜひというような観点での妥当性の説明が必要だということは重々承知しておりますので、ちょっとそこが、の根拠がいえるような検討の方を入れて、地盤ばねのほうの補足説明資料のほうに反映したいと思っているところが拝見上のステータスでございます。以上です。
1:59:55	はい。規制庁浜崎ですわかりました解析を至急し、結果を出してくださいという話は全然ないんで、どういう方針で検討をしたいということで、
2:00:05	説明をまずしてもらいたいというのが趣旨ですので、それが対応方針反映方針だと思いますので、先ほども言いましたけれども、ちょっとその反映方針、
2:00:15	もう中身方針が書かれてないのが随所にあるんですね、その点今後留意してもらいたいと思います。
2:00:22	よろしいですか。

2:00:24	はい。日本原燃合わせですかしこまりましたこちらについては記載が足りなかったのではきちんと今申し上げたような方針とステータスについて記載の方させていただきます。以上です。
2:00:34	はい。浜崎から以上です。
2:00:39	はい、規制庁上津とか表層関係ありますか。
2:00:44	なければ一応これで一通りですけど、
2:00:48	全体振り返って、規制庁がまだ何か、
2:00:52	しますか。
2:00:53	規制庁の岸野です。
2:00:55	今回の資料についてですね先ほどハバサキカワバタ根拠と妥当性を説明する根拠と妥当性の説明を求めたものに対する運営方針の回答はこういうホーム会社になっていて、
2:01:06	具体的な説明がないものだから、ヒアリングの中で一つ一つというわけにいかないですけども何かについて確認したところ、オガセさんの方から、比較的具体的な説明がなされたり、なされなかったり、
2:01:19	いう状況です。で、もうすでに検討がある程度進んでいて、来週の資料準備して提出に向けて準備が進んでいる中で、もう具体的な内容も、原燃としてはもう固まっている段階であるのに、
2:01:32	どうしてこういう資料としては、あまり具体性のない情報の乏しいものを出してきたのかということについてなんですけども、
2:01:42	一つは御説明されているオガタさんとかも、実はまだバシッと方針として決まっていなくて、今このやりとりの中で、悪い言い方をすれば思いつきで、
2:01:53	しゃべっていて、実際に言われた通りに資料化されるかどうかわからないというような状況なのか。
2:02:01	或いはアノオガタさんとかアノウノさんの中ではしっかりと方針が明確になっていて説明はできるんだけど、
2:02:07	でも、原案の中には共有されていないから資料化されていないのか。
2:02:13	それとも、もう現在の中にもちゃんとこの方針で行くぞっていう、具体的に書いてはいないけど、中身についても共有されていて、ただ、こんなに書かなくても、来週出すんだからそれ見てもらえばいいでしょっていう方針で、今回の
2:02:26	そのどれかなのかなと思うんですけど、そのあたり、
2:02:31	システムチームとしてはどういう態度で、或いはどういう目的ではこのヒアリングのどうなのかってのを教えていただけますか。

2:02:38	はい。日本原燃野元でございます。今おっしゃっていただいた確かにです ねちょっとオガワになってしまっているのが少し散見されるというのは 教え通りで、これはですね、
2:02:53	極力とそうじゃなくって、盗品を今回ご提示するということを目的にあっ たと、いうことにちょっと足りていなかったなというところではございま す。で、えっとですねちょっとここに至るまでのアリママツモと申し上げま すと、
2:03:10	近藤この資料を読んでいただければある程度、我々が何考えて何を反 映していただ寄せるかを読んでいただけるように
2:03:23	オカコウということでやっておりました。ただちょっとその中でですね少 し濃淡が出てしまったなというふうに思っているのは、ちょっとある程度で すね、
2:03:36	記載として、最後にちょっと記者さんがおっしゃった後、次にお出しする ので読んでいただくのも十分わかりいただけるんじゃないだろうかと。 と。
2:03:49	いうふうに思っちょっと機会が、そういう思い学校心の中にあつたところ も若干なくはなかったかなというふうな反省はあるところではございま す。で、この程度書いていただければわかっていただけるようにと思 いながら入っていたけれども、今日のやつでやっぱりこれでちょっとわかっ ていただけないよねっていうふうに伴
2:04:09	いや、発生したようなところもあるというところでございますんでちょっとこ こは、ちょっと我々のコミュニケーションのアノオダシバが悪かったという ところは反省なんすけど、これちょっとまだ反省しながらですね、
2:04:23	次回もう少しちゃんとスパイラルアップするような、運転手の言い方をや っていただきたいというふうに考えているところでございます。以上で ございます。
2:04:35	成長のキシノですはい。
2:04:38	実情といいますか、状況というのは、
2:04:41	わかり、
2:04:41	ました。
2:04:44	まず、ヒアリングの目的として問題意識とか方向性が合っているかを確 認したいと。もしそこに大きなずれがあるようであれば、来週提出予定 だった資料提出のスケジュールを見直すんだっていうのを先週の進め 方ヒアリングの中でおっしゃっていて、そういうつもりならというところもあ ったんですけども、

2:05:03	でもそういうことであれば、方針変更になった場合の手戻りが非常に大きいわけで、資料提出予定の1週間前に、また方針アライと変わる可能性もあるわけですから、そういうことを踏まえるともうちょっとスケジュール的にですね早い段階で、
2:05:16	こういった、まだもやっとした段階の技術しか出せないんであれば、より早い段階で出してこそ、お互いの認識を確認して方向性を定めるという、
2:05:26	方が効果的ではなくなかったかなと思います。一方これぐらいの時期になってこのヒアリングをやるということであれば、もう少しその中身について突っ込んだ事実確認をした上で、
2:05:38	足りない部分足りてる部分というのを明確にして話をした方がヒアリングの目的は達成できたのではないかなと思いますので、
2:05:46	まだ今後検討しますって言うてる場合については具体例はあまり書けないのかもしれないんですけども、もうすでに検討進めてる部分については例えばフローチャートを示すとか、
2:05:56	根拠に資する、岩盤分類図って言葉があるんだったら、その1例を示してですね、これもこういうところに着目してこういう整理をしようと思っていますといった、具体的な情報を盛り込んで、
2:06:09	資料に反映してですね、こういうヒアリングに臨めば、もう少し実務のあるやりとりができたんじゃないかなというふうにも、私は思いますので、ちょっとそういったことも念頭に置いて今後、
2:06:21	資料の準備の方をしていただければと思います。これで説明が足りてるんじゃないかなと思ったんだけどやっぱり足りてなかったなって気づいたっていうやりとりを今まで何度もしてますんで。
2:06:31	同じやりとりをしなくてもいいようにですね、次回、
2:06:34	こういった方針の資料を出してこられる際も、
2:06:37	内容を具体化したものを心がけて出していただければと。
2:06:40	ます。
2:06:45	よろしいですか。はい。
2:06:48	どうぞ、どうぞ。
2:06:52	評議員の方でございます承知いたしましたご定義するタイミングと、後定義するこの内容のですねアカサカ元が、
2:07:03	ある程度トレードオフになるところはあるんですけどもどこでどの程度のものでやっていただくのが適切かということと、おっしゃる通りこの画面でいくんだったらばもっと

2:07:16	具体化をきっちり追記たまったもので、やるべきでありますよ。おっしゃるのもおっしゃる通りですので、ちょっとそこを見て進め方も含めて、今後また育てていただければと思います。以上でございます。
2:07:33	はい、規制庁河合です。
2:07:36	ちょっとスケジュール的なところでは、になるんですけど、
2:07:41	08 が来週出ますねっていうのが 11 月 22 日の水曜日に出てきて、ヒアリングは 1 週間後の 11 月 29 日と。
2:07:52	ということなのですがその段階では今日話聞いたみたいに、追加調査の話っていうのはほとんど、また今度みたいな感じで出てくる
2:08:02	一方 12 月の会合を見据えると、
2:08:07	11 月 29 日にやってそれからまた何週間も待つっていうんだと確認がなかなか追いつかないなど。
2:08:15	ということで、順次、
2:08:20	追加調査の取りまとめ、それを資料、08 にどう反映していくかっていう作業は、並行して進められるのかなあと思うんですけど、実情としてはいかがですか。
2:08:37	年限ノモトでございますおっしゃる通りちょっと単位、タイムリーにご報告をしていかないといけないなという認識は持っております。で、
2:08:49	ですね今までちょっと進め方からいくと次のタイミングって追加調査の結果を反映して年末年明けにだけするとかそんな嫌いになってしまうんだけど、
2:09:02	ですね、ちょっと検討させてください。えっとですね、まず、追加調査を踏まえた検討方針そこまでは 10 月にご説明をしたいと思っておりますので、
2:09:13	そこまでを今のですね最初に館までの 8 期以降提出しますけれどもそう、それなりもしもまだちょっと書き足りないところがあれば、その売り場という形で、一旦を設置する必要があるかなというふうには思っております。
2:09:27	で、それでね、ということでございます。ちょっとそこはですね、社内で検討させてください。以上でございます。
2:09:36	規制庁加味するとそうするとあれです今の話だと 12 月の会合で話をしようと思っているその基本実地盤モデルとか設計地盤モデル
2:09:46	今までの調査結果をどう見てどんな感じで設計モデルを構築していくかっていう、割と具体。
2:09:54	具体まではいかないですけどこれこれにしますっていう手前の話ですよ。ぐらいの話は 11 月 20 日来週出てくる坂野。

2:10:05	独歩つでも大体書いてあるので基本的には 12 月の会合スコープにした補足説明は来週出るものですよっていうそういうことをおっしゃったんですか。
2:10:16	年ノモトでございますはい。そういう心づもりでやっております。
2:10:22	はい、規制庁プロパそれであればそういう目線で資料見ますし、出てきたタイミングで進め方も何かあるだろうから、はい。お話できれば、
2:10:35	あとは今回の反映方針の下のペーパーがまた出てくることになっていて、
2:10:43	要るかなあという思いもあるんだけど一応始末書でやっという方がいいんだらうと。その時にその何だらう、我々の言ったコメントだけ書くわけではなくて
2:10:56	その追加調査を踏まえて、こういうところ渡していきますよっていうのが、資料本文に全部書いてあればいいんですけど、
2:11:06	どうせだったら反映方針のところにも書いてということでもどちらがわかりやすい変わりですけど、検討いただければ、
2:11:16	原燃のことでございます。ですね。すいませんちょっと今オザキこれ認識合ってるかなというのがちょっと不安になったので確認させてください。今回私知った。
2:11:26	反映方針のペーパーにつきましてこれ次回の大変ヒアリングの時にも、横に並べる形でシバタオザキするものだと思っております。
2:11:39	本日の議論ももちろん踏まえて足らずのところをちょっと、それからそれがどこに反映されてるかというのを、足し算見ながら参照できる形でこれはまとめてオザキするものだというふうに、
2:11:55	思っております。そういう認識よろしかったですか。
2:12:00	規制とかミツイそうなると、今何か反映方針のところのきっかけって、ヒアリングで話をしたこと、会合で話をしたこと、
2:12:12	がすべてキックになっているような気はするんですけど、その原燃としてまだ話はできてないんだけど、これも宿題宿題っていうかまだできないこととして、予定があるんですよっていうのは言わなくていいですか。
2:12:27	県の方でございます。承知いたしました。あれですね、ムタからの大きな反映っていいですか平行線というのでここがおつき変わりましたここをご覧くださいといったようなところのポイントになるところはこの反映方針のところ、
2:12:42	ぜひ追記する形でまとめていただき、するという趣旨だというふうに認識いたします。お教えください。

2:12:50	あの辺あたりは多分、資料中にもう河川とかでは書いてあるんで大体わかると思うんですよ。
2:12:58	来週ですべて100点のものが出るわけじゃなくて、追加調査の話とかはまだ残るんですよ。で、それが何が残るんだっていうのがわかったほうがいいと。で、
2:13:09	そのときに、我々のコメントだったりだけがきっかけになっちゃうと抜け漏れがありそうだから直接コメントとして話はしてないんだけどこういうところも宿題としてあるんですよっていうのがあのまとまってるといいのかなあと思ったんですけど、その点はいかがですか。
2:13:28	はい。議員の方でございます。理解いたしましたもうゴールを見据えた検討しなきゃいけない断面なので、一番最後のゴールに対して、今ここがSARSであるということの、
2:13:39	スリッドをこの中に入れるべきだと、いうそういうご趣旨ですよ。はい、規制庁、水間池辺氏というかここで入れるのか
2:13:49	何だろう、あの資料本文のところ、全体像のところ書いてあればもうそれで事足りるっていうことなのかもしれないですし、その辺はちょっと作ってみてなんじゃないかなと思ってますけど
2:14:00	いずれにしてもまだこれからこういうことがあります予定ですよ。うんは変わるようにして欲しいなというのが、
2:14:08	思いです。
2:14:09	議員の方でございます。はい。ご趣旨理解いただきました。それがちょっと見えるようなフォーマットなり、仇っていうのを少し工夫して、ご提示を考えます。以上でございます。
2:14:22	はい。規制庁五味ですよろしくお願いいたします。
2:14:25	他、規制庁側から何かありますか。
2:14:29	なければ、振り返り、原燃から何かありますか。
2:14:36	元の方でございます東京からございまして6時からありますか。
2:14:42	はい。日本原燃オガセです特に六ヶ所からはございません。
2:14:46	はい。規制庁神です。で、あとは振り返りは今日はどんな感じでありますか。
2:14:55	現年ノモトでございます。ですねそうですね。
2:15:00	一応そのコメントもいただいているので、少し変えさせて、ただ、
2:15:09	ニッタこそうですね。
2:15:13	10本ぐらいちょっといただいて、振り替えさせていただく予定ですか。
2:15:18	はい、鏡です。じゃあ、画面に映してやります。

2:15:27	六ヶ所側どうでしょう打つ数準備って整います。もしあれだったらちょアノ会話をこの10分間の間にやって口頭になるけれども、そうできれば5分ぐらいでパッと中で話してもらって、
2:15:43	口頭でもいいんで、各パート、こんな感じっていうのが、
2:15:48	いいコンパクトでいいかなと思ってますけど。
2:15:51	了解です。宇津さん、使ういたしまして5分程度でちょっと口頭で、再開後にアベという形で、いややっていただくと思います。
2:16:04	はい、規制庁コマツよろしくお願いします。じゃ、一旦録音てしますんで50分からまたお願いします。
0:00:00	はい、規制庁、それではヒアリングされます。では振り返りの方、原燃から、
0:00:07	はい。
0:00:09	はい。日本原燃野元でございます。それでは簡単に振り返りさせていただきます。ちょっと細かなやりとりのところには中に我々もアキモト名簿で参りたいと思いますけれども、
0:00:20	大きな話としましては全体の話といたしまして、また系統0-3アベハヤタについていただいた話として、データに基づく客観的なニイツ関係とそのデータにも、物理的な意味合いをコサクするような
0:00:38	そういうフェーズと、それから議員の判断を行って、もう今モデルを設定していくケースをちょっと分けて、明確に示すことということと、それから事実関係及びデータに基づく、
0:00:51	機械というのをちゃんと前面にカセた形の検討ということをちゃんとしなさいと言っていたというふうな思っております。
0:01:02	付随しましてですね今、この補足説明資料のタテの08の中で、
0:01:10	と地盤の実態を考慮したパラメーターの設定のところ、それから基本モデルの設定の表の記載の仕訳につきまして今の事態を考慮したの方につきましては、
0:01:24	データをきちんと並べるということまでであるという基本的な考え方で統一した形で、ちょっと我々の認識が
0:01:36	ちゃんと取れてなかったところがございますんで、そこは今の作成してるものからちょっと改める形で今から作業したいというふうに考えているところでございます。
0:01:48	それから、基本地盤モデルを設定していくフェーズにおきまして、ある因子で獲られた知見につきまして、他の市に展開すべき項目が、

0:01:59	何か検討を据え、検討いたしまして、この検討を行う上で資料構成に必要において、検討することは見直していくと。
0:02:09	いったようなステップをきちんと踏むということで、これは例えばですね技術実施ではデータ定義と考察フェーズまでちょっと立ちまして、とか、別資料で各因子を統合して基本ニワモデル、設定フェーズの後に、
0:02:28	分割するのちちょっと書き方は、我々の方で工夫させていただく必要があるかなというふうに思っております。
0:02:35	で、特にほかにですね、本日のヒアリングでですね特に今我々認識なくてちょっと改めて、
0:02:45	対応しなくちゃいけないことというふうに認識いたしましたのが、4ポツ7の連続関数のところで、これのフジキコモリ費の作業ということで示しておりましたけどこれフリースペクトルの
0:03:01	定員に切り替えるということで、これをちょっとこれから修正して参りたいというふうに考えてございます。
0:03:07	それから4ポツ8を含めましてええと、追加調査を踏まえたですね、対応方針を決めまして、これ追加調査が出てから記載するつもりで
0:03:18	たところが、この岩盤のところ、岩盤の減衰のところまで次基本損益は設置のところもございましてこういうところですね、方針のところは今回の耐震タテも08で、
0:03:30	変えていくということで統一、生方議員、いただきます。
0:03:34	おったところで以上でございます。
0:03:39	はい、規制庁カミデて、
0:03:42	最初に言ったのは今までも何度も言ってる話なんで、同じですけど、あと
0:03:49	直接は関係ないんですけど、明日会合のヒアリングが午前中あって、間もなく、
0:03:59	CEO提示があるんだと思いますけど、この間進め方の時か、そのあと下の話をしていた耐震Noアノ時か飯野会合での説明内容のところ、基本地盤モデル
0:04:14	どんなことをやっていきますっていうところで、今どんな書きぶりになってくるんすかね。
0:04:21	原因ノモトでございます。失礼いたしました。そうですね、2-1ですね。今ですね今後の説明内容のところの、
0:04:32	えっとですね、以前で言いますと、①②③ということで議会の説明内容の中の②③のところですねえと。

0:04:43	2 課いい説明されてる追加調査データを用いて、下水道表層の分析の見通しを説明しますって書いていたところと、
0:04:56	それからそれから調査が獲られた後の今までの設計方針で説明しますという一言書いていたところがあるんですけども、このですね丸井都丸さんをちょっと詳しくといいますか、
0:05:10	この表層岩盤部岩盤原点と表層だけではなくて、地盤モデル、全体の設定方針について、一連対応方針説明書といったような形に書き換えてございます。
0:05:25	具体的には、②のところではですね、追加調査を含めて、説明、北説明県ヒライフジタ基づきここは変わりませんが、その4市を含めて、そのですね、基盤モデルの締結日パラメーターにつきまして、
0:05:42	各データの適用範囲が位置付けを踏まえて科学的に設定される、敷地内における全体に基づくパラメータの考え方や設定見通しを説明いたしますということで、
0:05:53	特にですね追加競争を踏まえた検討にあたっては、こういう事項に留意しますということで、岩盤については、その調査評価で、信頼区間してる周期体ですとか、
0:06:06	その対象となる減衰定数のテーマ財力または官僚の酸欠踏まえた建築行政の周期特性との関係性ですとか、
0:06:16	地震動の振幅、Rの大きさ、また清家直接関係というかそういうふうなそのお考え方を、成立分野としての留意事項というの、ナカザキこういうふうな具体的には、物性値が、
0:06:31	検討を念頭に置いてやって参ります。
0:06:34	その方針についてゴトウサクマといったような、そういうふうな記載にしております。③で以前はですね、
0:06:45	この追加検査、られたあと2番までの設定方針で説明しますと、いうふうに一言で言うておりましたけどもここはですね、その敷地内におけるデータに基づくパラメータを②で設定したのに対しまして、地区評価の入力地震動を算出する上での工学的な作業事項を加えることによって、
0:07:03	基本地盤モデルを確定する方針について考え方を説明しますといったようなことオカと書いた上で、この00につきましては、オールジャパンの意見を十分いただきつつ、きちんと進めて参ります。
0:07:16	いかなうなちょっと決意表明的なところも、

0:07:21	記載を考えてございます。ちょっと口頭で笑って申しあげましたけども以上でございます。
0:07:28	はい。規制庁深見です。
0:07:31	今言われた内容は1ページとすると結構な分量になってですけど実際の中身見てました話ができればと思いますけど、その
0:07:42	何か考え方があった後、2追加調査も含めこれまでの検討を
0:07:50	した結果どんなデータが入れているのかで、当然その獲られたデータの結果だけじゃなくてそういったこういう素性のものですよっていうのは、投げられるっていうぐらいまではわかるんですけどそのあと何か個別にその羅列していた種
0:08:05	D信頼区間がどうこうみたいなのっていうのが何か逆に細かい感じがしたんですけど。うん。そやな、あれなんすけどなんか例示として、
0:08:15	何か書いてあるんですか。
0:08:18	前の方でございます。ここの意図としてはですね、てた、まず追加調査について素直に並べるところまではもちろん言ってるんですけども、
0:08:30	津波並べられたデータを、今後こういうことを念頭に置きながら分析して参りますと、いう着目点、こういうふうな検討するんだなというような、
0:08:41	ところが若干でもイメージできるようなものということで、こういうことを書かせていただいているということでございます。以上でございます。
0:08:50	はい。規制庁神です。わかりました。
0:08:53	聞いといたんですけど、実際は資料見て、明日話聞きます。はい。ありがとうございます。
0:08:59	他は、お願いします。はい。
0:09:10	ごめんなさい。
0:09:13	ヒアリングのまとめ。
0:09:15	そこの対応関係はちゃんとしてる規制庁カミデですとか、規制庁学会ありますか。
0:09:23	はい、じゃあ、原課のよろしいですかね。
0:09:29	はい。こちら特にございません。
0:09:32	はい、じゃあヒアリングはこれで終了したいと。
0:09:37	はい、お疲れ様でした。

